

和仏法律学校講義録

矢作, 榮藏 / 若槻, 禮次郎 / 下村, 宏 / 赤司, 鷹一郎 / 掛
下, 重次郎 / 松岡, 義正

(出版者 / Publisher)

和仏法律學校

(巻 / Volume)

2-22

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

53

(発行年 / Year)

1900-12-25

和佛法律學校

講義錄

第貳部

第貳拾貳號

商法商行為 (自一八) 法學士赤司慶一郎

商法海商 (自一六) 法律學士掛下重次郎

破產法 (自二九) 法學士松岡義正

經濟學各論 (自七七) 法學士矢作榮藏

財政學完也 (自四九七) 法學士下村宏

表紙及目次 十六頁

現行租稅法論 (自三三) 法學士若槻禮次郎



090
1900
2-1-22

商法商行為

法學士 赤司鷹一郎 講述

第一章 總則

商行爲トハ物品ノ疏通ヲ目的トスル營利行爲ナリ此商行爲ノ範圍ハ一ニ商ノ觀念ニ依リテ定マルヘキモノニシテ一定不變ノモノニ非ス吾人若シ今日ノ商ト古代ノ商トヲ比較セハ其範圍ニ於テ著シキ差違ノ存スルコトヲ認ムヘシ社會ノ種メテ幼稚ナル時代ニ於テハ商ナル語ハ殆ト交換ト同一ノ意味ニ用ヒラレシカ社會ノ稍進歩スルニ至リ交換ノ媒介物タル貨幣ノ利用ヲ自覺シテヨリ賣買ヲモ意味スルニ至レリ然レトモ之ヲ今日ニ比スレハ其範圍極メテ狭シ世メ漸ク進歩スルニ隨ヒテ賣買ノ媒介物タル金錢取扱ニ關スル商業ヲ生ム是レ

即チ附替屋トシテ銀行取引ノ始タリ學者通常此二者ヲ總稱シテ固有ノ商ト稱セリ世ノ益、進歩スルニ隨ヒテ物品ノ疏通ヲ媒介スル行爲モ亦獨立ノ營業ト看做サルルニ至レリ例ヘハ運送業ノ如シ又所謂代理仲立等ノ如キ賣買ヲ取結フ所ノ取引ヲ生セリ此他賣買ノ取引ヲ容易ナラシムルノ外尙ホ鞏固ナラシムル行爲モ亦獨立ノ行爲トシテ取扱ハルルニ至レリ是レ即チ保險ナリ又製造業ノ如キモ古ハ之ヲ商ノ一種ト看做サナリシト雖モ今日ニ於テハ營利ノ事業ナルカ故ニ商ナル觀念中ニ包含スルモノト謂ハサルヘカラス學者通常此等ノ行爲ヲ總括シテ固有ノ商ニ對シテ補助ノ商ト稱セリ

今此商行爲ノ定義ヲ分析スルトキハ左ノ如シ

第一 商行爲ハ法律行爲ナリ

法律行爲ノ如何ナルモノタルヤハ民法上ノ研究ニ於テ既ニ諸君ノ知ル所ナルヲ以テ別ニ之ヲ精論セヌ要スルニ私法上ノ效力ヲ生セシメントスル所ノ意思表示換言スレハ權利義務ノ關係ヲ生セシムル所ノ行爲ナリ

第二 商行爲トハ物品ノ疏通ヲ目的トスル法律行爲ナリ

茲ニ物品ト云フハ最モ廣キ意味ニ用ヒタルモノニシテ動産不動産有價證券其他尙モ財産權ノ目的タルヲ得ヘキ總テノ物ヲ包含ス而シテ物品ノ疏通ニハ一方ニハ生産者アリ他ノ一方ニハ消費者ナカルヘカラス其疏通ノ最モ簡單ナルモノハ直接ノ疏通ニシテ最初ノ生産者ト最初ノ消費者トノ間ニ行ハルル所ノモノナリ間接ノ疏通ニ於テハ其一方ハ通常生産者ナレトモ取得者ハ消費者ニ非ス又生産者ニ非サルナリ此生産者ニ非ス消費者ニ非サル者カ二者ノ間ニ立入りテ疏通ノ補助ヲ爲スハ畢竟直接ノ疏通ハ物品ノ需要供給ヲ知ルコト困難ナルノミナラス物品ノ價格ヲ知ルヲ得ス隨テ要急ノ需用供給ニ應スルヲ得タル等ノ故障アルカ故ニシテ此等ノ故障ハ間接ノ疏通ニ因リテ始メテ排除スルコトヲ得ルノミ此間接ノ疏通ヲ稱セテ商ト曰ヒ此商ヲ目的トスル法律行爲ヲ商行爲ト曰フ

第三 商行爲ハ營利行爲ナリ

商ニハ利益ヲ目的トスルコト缺クヘカラサルモノニシテ物品ノ疏通ハ經濟上ヨリ觀ルトキハ總テ有價ナラサルヘカラス報酬ナクシテ物品ヲ疏通スル如キ

ハ道徳上、法律上ノ事柄ニシテ經濟ノ範圍ニ屬セス而シテ諸種ノ經濟上ヨリ計
算シテ利益ヲ得ントスルハ商ノ目的ナリ此利益ヲ得ンカ爲メニ物品ノ疏通ヲ
目的トスル行爲ニ非サレハ商ト謂フヲ得ス例ヘハ醫師、官吏、辯護士、技術家等ノ
精神的ノ能力ニ因リ利益ヲ得ントスルカ如キハ商ヲ行フト謂フコトヲ得ス
以上述ヘタル所ハ學理上ノ觀察ニ基クモノニシテ近世歐洲諸國ノ法典ハ其法
典中ニ商行為ノ定義ヲ與ヘタルモノト商行為ノ種類ヲ列記シタルモノトノ二
ニ別ツコトヲ得

(一) 廣ク商行為ノ定義ヲ掲ケル主義

此主義ハ西班牙、葡萄牙等ノ採用スル所ニシテ商行為ノ定義ヲ法典ニ掲ケ此主
義ハ立法上甚タ不可ナルノミナラス其定義モ極メテ曖昧ニシテ他日ノ疑ト爲
ルモノナリ故ニ此等ノ主義ハ到底正當ナルモノニ非サルナリ

(二) 商行為ヲ列記スル主義

茲ニ列記ト謂フハ例示的ノ列舉ニ非スシテ制限的ノ列舉ノ意味ニ用ヒタルナ
リ此列記主義モ亦大別シテ三種ト爲ス

(甲) 人的主義 此主義ハ商人ヲ基礎トシテ商行為ヲ定ムル所ノ主義ナリ昔

瀋西ノ商法草案ノ如キハ先ヅ商人ノ意義ヲ定メテ然後之ニ依リ商行為ナ
ルモノヲ定メントセリ此主義ハ理論上ニ於テ少シク其當ヲ得ス商行為ハ本
ニシテ之ヲ行フ者ハ商人ナラサルヘカラス然ルニ先ヅ商人ノ意義ヲ定メテ
然後之ニ商行為ヲ定ムルハ其順序ヲ誤マレリト謂ハサルヘカラス

(乙) 物的主義 此主義ハ商行為ヲ其本質ヨリ定メントスル所ノ主義ニシテ
商行為ヲ爲ス者ハ商人ナルト非商人ナルトヲ問ハス營業トシテ之ヲ爲スト
非營業トシテ之ヲ爲ストヲ問ハス總テ商行為トシテ商法ノ規定ニ從ハシム
ル所ノ主義ナリ

(丙) 折衷主義 前二主義ヲ併用シタルモノニシテ或種類ノ行爲ハ之ヲ爲ス
者ノ商人ナルト否トヲ問ハス之ヲ商行為ト爲スト雖モ他ノ種類ノ行爲ハ營
業トシテ爲ス場合ノミ商行為ト看做ス主義ナリ此主義ハ佛、獨等ニ於テ行ハ
ルル所ニシテ我商法ハ明カニ此主義ヲ採用セリ即チ第二百六十三條ニ於テ
商人カ爲スト非商人カ爲ストヲ問ハス總テ商行為ト看做スヘキモノヲ列記

シ第二百六十四條ニ於テハ營業トシテ商人カ之ヲ爲セタル場合ニ於テ商行為ト看做スヘキモノヲ列記セリ

商行為ノ種類ニ付テ今日學者間ニ最モ廣ク行ハルル分類法ニ從ヘハ商行為ヲ別チテ左ノ五種トス

- (一) 絶對的商行為 其行為ノ性質上商行為タルモノニシテ商人カ爲セタルト非商人カ爲セタルト箇箇ノ商行為ナルト營業的ナルトヲ問ハス總テ商行為ト爲スモノナリ我商法ノ第二百六十三條ハ此絶對的ノ商行為ヲ規定シタルナリ
- (二) 相對的商行為 相對的商行為トハ營業トシテ爲シタル場合ニノミ商行為ト爲ルモノナリ絶對的商行為ハ其行為ヲ爲シタル人ノ何人タルヤヲ問ハサルモ相對的商行為ニ在リテハ商行為ヲ行フ人カ營業トシテ之ヲ爲スコトヲ必要トス我商法第二百六十四條ハ此種類ノ商行為ヲ規定セルモノナリ
- (三) 附屬的商行為 商人カ其營業ノ爲メニスル行為ヲ謂フモノニシテ我商法第二百六十五條第一項ハ此商行為ヲ規定セリ
- (四) 推定の商行為 商人ノ爲シタル行為ハ反對ノ證據ナキ限りハ商行為ト推

定スルモノナリ第二百六十五條第二項ハ此商行為ヲ規定セタルモノナリ

(五) 一方的商行為 雙方的商行為 一方的商行為トハ一ノ行為カ當事者ノ一方ニ取リテノミ商行為タルモノナリ雙方的商行為トハ當事者ノ雙方ニ取リテ商行為タルモノヲ意味スルナリ此第五ノ區別ハ我商法ヲ説明スルニ付テハ不用ノモノナリ此二者ヲ區別スルノ必要ハ獨逸古代ノ商法ノ如ク當事者ノ雙方カ共ニ商人タル場合ニ始メテ適用スヘキモノト當事者ノ一方カ商人タル場合ニ適用スヘキモノヲ區別セル場合ニ於テ此二者ヲ區別スル必要ヲ生スレトモ我商法ノ如キハ第三條ニ於テ當事者ノ一方ノ爲メニ商行為タル行為ニ付テモ猶ホ雙方ニ對シ商法ノ規定ヲ適用スルコトヲ定メタルヲ以テ此區別ハ實際上ニ於テ其必要ヲ見ス

第一節 絶對的商行為

絶對的商行為ハ其本質上商行為タルヘキモノニシテ箇箇ノ行為タルト非商人カ爲シタル行為ナルトヲ問ハス總テ商行為タルモノナリ此商行為ハ商法第二

百六十三條ノ規定スル所ニシテ即チ左ノ如シ
第一 利益ヲ得テ讓渡ス意思ヲ以テスル動産不動産若クハ有價證券ノ有價取
得又ハ其取得シタルモノノ讓渡ヲ目的トスル行為第二六三條第一

一方ヨリシテ動産不動産又ハ有價證券ヲ取得シ利益ヲ得テ之ヲ他人ニ讓渡サ
ントスル行為ハ通常之ヲ投機的ノ買入又ハ相場的ノ買入ト曰フ今此行為ヲ左
ニ分析説明セシム

(一) 其行為ノ目的ハ動産不動産又ハ有價證券ナラサルヘカラス動産不動産ノ
コトハ既に民法ノ規定スル所ニシテ別ニ説明ヲ要セス有價證券トハ權利ノ發
生利用及ヒ其效力カ證書ト離ルヘカラサルモノ又ハ其利用及ヒ效力カ證書ト
離ルルコト能ハサルモノヲ謂フ例ヘハ手形上ノ債權債務ハ手形ト共ニ發生ス
ルモノニシテ此手形ハ最モ完全ナル有價證券ナリ然レトモ此有價證券ノ中ニ
ハ證書ナクシテ權利ハ發生スト雖モ其權利ヲ利用スルニ當リテハ證書ヲ必要
トスルモノアリ有價證券ノ中ニハ或ハ物權的ノ效力ヲ生スルモノアリ例ヘハ
倉荷證書ノ如シ或ハ債權的ノ效力ヲ生スルモノアリ又有價證券ノ中ニハ指圖

式ノ有價證券アリ記名式ノ有價證券アリ或ハ無記名式ノ有價證券アリ
(二) 有價取得トハ報酬ヲ與ヘテ所有權ヲ取得スル意味ニシテ法律行為ニ非テ
ル所ノ取得例ヘハ狩獵捕漁ノ如ク天產物ヲ採取スル如キモノハ有價取得ト謂
フコトヲ得ス

(三) 他人ニ讓渡スノ意思ハ取得スル當時ニ於テ存在セサルヘカラス且ツ其意
思ハ明示又ハ默示ニ表示セラレサルヘカラス取得ノ當時ニ讓渡ノ意思ナケレ
ハ他日之ヲ讓渡スモ商行為ト謂フコトヲ得ス讓渡ノ意思カ取得ノ當時ニ存セ
シトキハ縱令後日ニ其意思ヲ實行セサルモ仍ホ其商行為タル性質ヲ失ハス
第二 他人ヨリ取得スヘキ動産又ハ有價證券ノ供給契約第二六三條第二
供給契約トハ他日他人ヨリ取得スルト云フ意思ヲ以テ動産又ハ有價證券ヲ供
給スル契約ニシテ投機的賣却ノ義ナリ而シテ第一ノ投機買入ノ商行為ニ在リ
テハ取得スルコトカ先ニシテ讓渡スコトハ後ナリ此供給契約ニ於テハ讓渡カ
先ニシテ取得ハ後ナリ投機的買入ノ場合ニ在リテハ讓渡ノ意思ヲ以テ之ヲ取
得シタルモノナレトモ投機的賣却ノ場合ニハ取得スル意思ヲ以テ讓渡サンム

スルモノナリ此供給契約ノ條件ヲ分析スレハ其條件ニハ意思ヲ以テ商行為ニ
 (一) 供給契約ノ目的ハ動産又ハ有價證券ナラサルヘカラス
 (二) 所有權ノ移轉ヲ目的トスル行為ナルコトヲ要ス
 (三) 供給者ハ他日他人ヨリ取得スルド云フ意思ヲ以テセサルヘカラス且ツ此
 意思ハ供給ヲ約スル當時ニ於テ存在スルモノナラサルヘカラス
 第一種ノ商行為ニ於テハ取得ノ行為カ先ニシテ之ヲ他人ニ讓渡ストキハ取得
 ノ際ニ存在セシ所ノ意思ヲ貫徹スルモノナリ第二種ノ商行為ハ供給ヲ爲スノ
 約束カ前ニ成立シ之ヲ履行スルカ爲メニ他人ヨリ取得スルハ給付ヲ爲ス契約
 ヲ爲ス當時ニ存在セシ意思ヲ貫徹セシムルモノナリ即チ第二百六十三條ノ第
 一號ノ末段ト第二號ノ末段ニ掲ケタルモノナリ是ヲ以テ第一種ノ商行為ニ於
 ケル讓渡及ヒ第二種ノ商行為ニ於ケル給付ノ行為ハ學者カ之ヲ實行行為或ハ
 履行行為ト稱セリ
 第三 取引所ニ於ケル取引第二六三條第三號
 此取引ノ如何ナルモノナルカハ明治二十六年三月取引所法ニ掲ケアリ此取引

所ノ取引ニハ商品ノ取引ト株式ノ取引トノ二アリ取引ノ種類ニ付テ云ヘハ直
 取引ト延取引及ヒ定期取引トニ分ル此第二百六十三條ノ第三號ハ總テ此等ノ
 取引ヲ包含セルモノナリ

第四 手形其他ノ商業證券ニ關スル行為(第二六三條第四號)

手形ノ何タルヤハ手形法ノ說明ニ讓リ手形其他裏書ヲ以テ他人ニ移轉スルコ
 トヲ得ル證券ノ發行裏書支拂其他ノ取引ノ如キハ之ヲ商行為ト看做スモノナ
 リ

第二節 主觀的商行為

第一節ニ於テ所述シタルモノハ總テ其性質上商行為タルモノナリ客觀的的行為
 ハ其商行為ヲ爲ス人ノ如何ヲ問ハスレテ常ニ商行為ナリト雖モ本節ニ於テ論
 セントスルモノハ營業トシテ爲シタル場合ニ於テ始メテ商行為ト爲ルモノ
 ナリ
 主觀的商行為ニ付テハ我商法ハ第二百六十四條ヲ以テ之ニ關スル規定ヲ設ケ

タリ左ニ順次之ヲ説明セシム

(第一) 貸貸スル意思ヲ以テスル動産若クハ不動産ノ有償取得若クハ貸借又ハ其取得若クハ貸借シタル物ノ貸貸ヲ目的トスル行為
今之ヲ分析スレハ

(一) 其行為ノ目的ハ動産若クハ不動産ナラサルヘカラス。蓋商法ニ依レハ不動産ニ關スル取引ハ之ヲ商行為ト看做サナリシト雖モ尙モ營利ノ目的ヲ以テ不動産ヲ讓渡シ貸貸シ若クハ其他ノ疏通行為ヲ爲シタルトキハ之ヲ商行為ト看做スヘカラサル理由ナキヲ以テ新法ニ於テハ不動産モ亦商行為ノ目的タルコトヲ得ルコトトセリ

(二) 有償取得若クハ貸借並ニ既ニ取得若クハ貸借シタル物ノ貸貸ヲ目的トスル行為

有償取得ナル語ハ既ニ第一節ニ於テ説明シタルカ如ク報酬ヲ出シテ所有權ヲ取得スル行為ヲ意味スルモノニシテ之ヲ貸借ト區別スルコトヲ要ス所有權移轉ノ效果ヲ生セシムル目的ヲ以テ爲シタル行為ハ取得ノ行為ニシテ貸借ハ毫

モ所有權ニ影響スルコトナク單ニ使用收益ノ權利ヲ創設スルニ過キササルモノナリ

(三) 他人ニ貸貸スルノ意思

他人ニ貸貸スルノ意思ハ取得又ハ貸借ノ當時ニ存在セサルヘカラス取得又ハ貸借ノ當時ニ於テ貸貸スルノ意思ナクシハ他日之ヲ貸貸スルコトアルモ商行為ト看做スコトヲ得ス

(第二) 他人ノ爲メニスル製造又ハ加工ニ關スル行為

製造又ハ加工ニ關スル行為ト謂フハ他人ノ爲メニ物品ヲ製造シ又ハ他人ノ材

料ニ勞力ヲ加ヘ相手方ヨリ報酬ヲ受クル行為ヲ謂フ

(第三) 電氣又ハ瓦斯ノ供給ニ關スル行為

(第四) 運送ニ關スル行為

荷物運送タルト旅客運送タルト陸商タルト海商タルトヲ問ハス尙モ運送ニ關

スル行為ハ總テ主體的商行為ナリ

(第五) 作業又ハ勞務ノ請負

請負ノ何タルヤハ民法ノ範圍ニ屬スルヲ以テ詳述セズ要スルニ請負トハ報酬ヲ受ケテ或仕事ヲ完成セントスル契約ナリ

(第六) 出版印刷又ハ攝影ニ關スル行爲

(第七) 客ノ來集ヲ目的トスル場屋ノ取引

營利ノ目的ヲ以テスル劇場寄席角力ノ如キモノヲ意味スルモノニシテ營利ノ目的ヲ以テセス單ニ公益ノ目的ヲ有スルモノハ本號中ニハ包含セス

(第八) 兩替其他銀行取引

銀行取引ノ範圍ハ商ノ觀念ノ異ナルニ隨ヒ同一ナラス如何ナル取引カ銀行取引ナルヤハ商慣習ニ依リテ之ヲ決スヘキノミ我銀行條例供託法等ヲ見レハ略其範圍ヲ知ルコトヲ得ン金錢ノ貸付兩替寄託契約手形ノ割引等ハ今日ニ於テハ銀行取引ト看做スコトヲ得ヘシ

(第九) 保險

保險ハ其目的ヨリ之ヲ區別スレハ生命保險及ヒ損害保險ノ別アリ又營業トシテ爲ス保險ト相互ノ保險トニ區別スルコトヲ得ヘシ本號ニ於テ保險ト稱スル

モノハ如何ナルモノナルヤ以上各種ノ保險ヲ包含スルモノナリヤ營業トシテ爲ス保險ノ商行爲タルコトハ疑ナシト雖モ相互ノ保險ハ一定ノ人人集合シテ互ニ保險者被保險者ト爲リ若シ社員ノ一人ニ對シ損害アリタルトキハ之ヲ社員間ニ分ツコトヲ目的トスルモノニシテ利益ヲ得ルヲ以テ目的トセサルモノナルヲ以テ之ヲ商行爲ト稱スルコトヲ得ス然レトモ今日相互ノ保險ト稱スルモノノ多數ハ純然タル相互ノ保險ニ非スニテ營業トシテ爲ス保險ト相互ノ保險ヲ折衷シタルモノナリ隨テ此種ノ相互ノ保險ハ商行爲ト看做スヲ至當トス商法第四百十八條ノ規定ノ如キモ亦此主旨ニ外ナラザルナリ

(第十) 寄託ノ引受

倉庫營業其他荷モ營業トシテ他人ノ動産又ハ有價證券ノ保管ヲ引受クル行爲ハ之ヲ商行爲ト看做スヘキノナルヲ以テ本號ノ規定アル所以ナリ

(第十一) 仲立又ハ取次ニ關スル行爲

(第十二) 商行爲ノ引受

以上第一號乃至第十二號ニ掲タル行爲ハ營業トシテ之ヲ行フ場合ニ限り商行

爲タルヘキモノナリ各號ニ關スル精細ノ説明ハ後ニ讀リ茲ニハ唯商法第二百六十四條但書ヲ説明シテ以テ本節ヲ終ヘントス

商法第二百六十四條ノ但書ニ曰ク但專ラ資金ヲ得ル目的ヲ以テ物ヲ製造シ又ハ勞務ニ服スル者ノ行爲ハ此限ニ在ラズト蓋シ專ラ資金ヲ得ル目的ヲ以テ物ヲ製造スル者ハ縱令其材料ヲ自ラ供給スルコトアルモ其目的ハ主トシテ勞力ニ對スル報酬ヲ得ント欲スル者ニシテ其職業ノ輕微ナルカ爲メニ之ヲ商行為ト看做スヘキモノニ非サルカ故ニ本條但書ヲ設ケテ之ヲ除外セリ

第三節 附屬的商行為

附屬的商行為ノ何タルヤハ商法第二百六十五條第一項ノ規定スル所ニシテ商人カ其營業ノ爲メニ爲ス行爲ヲ意味スルモノナリ抑モ商行為ノ體様タル千變萬化極リナキヲ以テ商行為ノ種類ヲ悉ク列記スルハ立法者ノ能クセザル所ナラ是ヲ以テ商法第二百六十五條ハ概括的ニ營業ヲ容易ニシ若クハ營業ヲ爲スニ必要ナル行爲ハ縱令前條主觀的商行為又ハ客觀的商行為ニ屬セザル行爲ト

雖モ仍ホ之ヲ商行為トシ商法ノ規定ヲ適用スヘキコトヲ明カニセリ

附屬的商行為ハ商人カ營業ノ爲メニ爲スニ因リテ商行為ト爲ルモノナルヲ以テ商人ハ營業トシテ之ヲ爲スノ必要ナク又繼續シテ之ヲ行フコトヲ必要トセズ是レ主觀的商行為ト異ナル所以ナリ

第四節 推定的商行為

商法第二百六十五條第二項ハ推定的商行為ニ關スル規定ナリ同條ノ規定ニ依レハ凡テ商人ノ爲シタル行爲ハ營業ノ爲メニ爲シタルモノト推定スルヲ以テ商人ノ行爲ハ反對ノ證據ナキ限りハ之ヲ商行為ト推定セザルヘカラス是レ既ニ本條第一項ヲ以テ營業ノ爲メニ爲スル商人ノ行爲ハ之ヲ商行為トセリト雖モ果シテ商人カ營業ノ爲メニ爲シタル行爲ナリヤ否ヤハ屢事實問題トシテ疑義ノ生スルコトナルヲ以テ此等ノ疑ヲ決センカ爲メニ第二項ノ推定ヲ設ケタルナリ故ニ商人ハ其行爲ニ關シ營業ノ爲メニ爲シタルヤ否ヤノ事實問題ニ付キ反證ヲ提出シテ之ヲ爭フコトヲ得ルト雖モ其行爲ニシテ營業ノ爲メニ爲シタ

及ヒ海上儀式等ニシテ此外海戰法即チ局外中立封港及ヒ戰時禁制品等ニ關スル原則亦之ニ算スルヲ以テ之ヲ宣ハシメテハキヤイナス門ヘハ附屬法トシテ海上行政即チ警察法ナルモノハ其國船舶ノ行政官廳ニ對シ遵守スヘキ規則ニ係リ此規則タル專ラ商船ニ關スルモノナリ何トオレハ軍艦ハ軍隊ト同シ特別ノ行政ニ屬シ普通行政ノ外ニ在レハナリ故ニ右規則ニ屬スルモノハ管海官廳管港官廳及ヒ其事務船舶及ヒ港上警察其他船舶ノ製造水先案内船員ノ警察ニ對スル關係即チ船員教育並ニ試驗等はナリハハ管海官廳ニ關スル事ニ付キ各箇人ノ間ニ於テ遵守スヘキ原則ニシテ普通民法ト同シク成文法ト慣習トヨリ成ル今ヤ航海ハ重ニ海商ヲ目的トスルカ故ニ海上民法ハ海商法ト同一物ナリ而シテ海商ハ一般ニ云ヘハ船客貨物ノ運送漁獵國土發見又ハ娛樂ノ爲メニスル船隻ヲ必スシモ除クニ非ズト雖モ主トシテ海上運送ニ係ル何トナレハ航海ハ其目的ノ如何ヲ問ハス海商法ノ要項ニシテ航海ノ業ハ縱令商業ヲ本トセサルモ常ニ商業ト看做スヘクレハナリ故ニ海上船舶ハ爲營或ハ手形振出ノ如ク必ス之ヲ商事ト看做シ殊ニ實際ニ於

テハ軍艦ヲ除クノ外百種ノ船舶殆ト皆海商即チ海上運送ニ供スルモノナリ是ヲ以テ娛樂船ヲ艦裝シテ世界ヲ一周セシカ其船員並ニ其船舶ニ關スル契約及ヒ海難ニ付テハ莫ク商船ト同一ノ原則ニ依ラシムル國多シ

近時ノ法律ニ於テハ海上法ノ諸部類ヲ區別スルコトヲ始メ佛國商法第二編第一九〇條以下ニ專ラ民事上ノ事ヲ規定ス其他ノ商法モ亦多ク之ニ類ス又海上警察ニ屬スル事ハ之ヲ合記スルコトナキニ非ス實ニ分別スルコトヲ得サルモノアリ何トナレハ是レ併セテ行政法及ヒ民法上ニ關係ヲ有スレハナリ即チ船舶ノ検査登錄船員ノ權利義務及ヒ海難等ニ係ル規則ノ如キ是ナリ本法ハ此點ニ付テハ全ク右商法ニ模倣シ萬國海上法海上行政即チ海上警察法ノ原則ハ海商法ノ外ニ置キ之ヲ特別法ニ讓レリ

萬國海上法及ヒ海上行政法ニ關スル英佛伊獨國ノ重要ナル法令ハ左ノ如シ

佛國法令

千六百八十一年ノ勅令アルドナンヌ

千八百四十五年六月十三日ノ法律

千八百六十六年五月十九日ノ法律

伊國法令

千八百六十五年六月二十五日ノ法律(商船法)

千八百七十七年五月二十四日ノ法律(商船法)

英國法令

千八百五十四年八月十日ノ商船條例(アルチャントシフビングアクト)

其附錄追加即チ千八百五十五年八月十四日ノ法律、或チ其後ニ本邦へ出帆

千八百五十五年八月十四日ノ船客運送規則

千八百六十二年七月二十九日ノ法律

千八百七十六年八月十五日ノ法律

千八百六十九年五月十三日ノ殖民地其他ノ商船條例

獨國法令

千八百六十七年十月二十五日ノ商船屬籍規則

千八百七十六年八月十四日ノ海難信號條例

千八百七十七年七月二十七日ノ海難調査規則

千八百七十三年六月二十八日ノ商船登録及ヒ記號規則

千八百七十二年七月五日ノ船舶測度條例

千八百七十二年十二月二十七日ノ海員條例

千八百七十四年五月十七日ノ座礁ニ關スル法律

本邦ノ法令ノ重要ナルモノハ左ノ如シ

明治三年正月第二十七號布告商船規則

同五年四月外務省達外國船乗組心得

同六年六月第三百十五號布告海關輸出入荷物取扱規則

同八年五月三十一日第九十八號布告西洋形船へ賊難防禦ノ爲メ大小砲設備

同八年九月二十四日第四十四號布告西洋形船信號

同八年十二月第百八十四號布告廻漕貨物取扱條例

同九年三月第三十號布告内國船舶乗組規則

- 同十年三月八日第二十八號布告船船ノ賣買書入買ニ付キ公證ヲ受クルコト
- 同十年七月第五十二號布告外國航日本形船ノ國旗ヲ掲揚スルコト
- 同十一年十二月九日第三十七號布告西洋形船水先免狀規則
- 同十二年二月五日第五號布告西洋形船船籍編入方
- 同十二年二月第九號布告西洋形商船海員雇入雇止規則
- 同十二年五月十五日第十九號布告航海公證規則ヲ廢シ西洋形船免狀改正ノ件
- 同十三年七月十六日第三十五號布告海上衝突豫防規則
- 同十四年二月十七日第十二號布告汽船十噸帆船二十噸以下及ヒ湖川港灣限リ運轉スル西洋形船免狀ヲ要セザルコト
- 同十四年十二月二十八日第七十五號布告西洋形船船長運轉手續關手免狀規則
- 同十七年四月第十號布告船船積量測定規則
- 同十七年十二月第三十號布告西洋形船船檢査規則

- 同十九年八月法律第一號登記法
- 同二十三年七月勅令第三百三十三號商業及ヒ船船ノ登記ニ關スル件
- 同二十三年十月勅令第二百十九號船籍規則
- 同二十五年六月法律第五號海上衝突豫防法
- 同二十六年十月逕信省令第十八號西洋形船船檢査細則
- 同二十八年一月逕信省令第一號外國航海中海離届出手續ニ關スル件
- 同三十二年三月七日法律第四十六號船船法
- 同三十二年三月七日法律第四十七號船員法
- 同三十二年三月十三日法律第六十三號水先法
- 同三十二年三月二十八日法律第九十五號水難救護法
- 同三十二年五月二十六日逕信省令第十九號商法第五百六十二條ニ掲グル書類ノ件
- 同三十二年五月二十六日逕信省令第二十六號船員規則
- 同三十二年五月二十六日逕信省令第二十號商法施行法第百二十二條ニ依ルル湖川港灣及沿岸小航海ノ範圍ノ件

同三十二年六月十二日遞信省令第二十四號船舶法施行細則
 同三十二年六月十二日遞信省令第二十五號船員法施行細則二十二條一項
 同三十二年六月十二日遞信省令第二十六號船員法第七十九條ニ關スル件
 同三十二年六月十五日勅令第二百七十號船舶登記規則六十二條一項
 同三十二年七月二十九日遞信省令第三十三號水先法施行細則
 同三十二年七月二十九日遞信省令第三十四號水先人試驗規則
 同三十二年七月二十九日遞信省令第三十五號水難救護法施行細則

以上列舉シタル法令中漸次廢改セラレタルモノ數多アリ

海商編ヲ分チテ第六章トス即チ第一章船舶及船舶所有者第二章船員第三章運送第四章海損第五章保險第六章船舶債權者是ナリ

第一章 船舶及船舶所有者

舊商法ニ於テハ船舶ハ船舶所有者ノ章又異ニシ之ヲ各一章ト爲シタレトモ新商法ハ之ヲ合シテ一章ト爲シテ之ヲ而シテ新商法力之ヲ併合シタル所以ハ蓋

法ノ船舶ニ關スル規定ハ行政法若クハ手續法ニ屬スルモノ多クシテ新商法ノ主義ヨリ云ヘハ商法中ニ存スベキ規定ニ非サルヲ以テ之ヲ他ノ法令ニ讓リタレハ單ニ船舶ニ關スル規定ニ殘存スルモノ極メテ僅少ナルヲ以テ之ヲ一章ト爲シテ掲クルノ必要ナク且ツ船舶ニ關スル規定ト船舶所有者ニ關スル規定トハ密接ノ關係ヲ有スレハナリ

○海商ノ目的タル船舶第五百三十八條ニ本法ニ於テ船舶トハ商行為ヲ爲ス目的ヲ以テ航海ノ用ニ供スルモノヲ謂フ本編ノ規定ハ端舟其他檢艇ノミヲ以テ運轉シ又ハ主トシテ權限ヲ以テ運轉スル舟ニハ之ヲ適用セス(舊商法第八二四條第八三五條第二項舊商法第一九〇條舊商法第四三二條)

海商法ハ直接間接ニ船舶ニ關スル規定ナルヲ以テ其船舶トハ單ニ營利ヲ目的トシテ航海ノ用ニ供セラルルモノニ限ルカ將タ單ニ航海ノ用ニ供セラルルモノナルカ獨逸舊商法第四三二條ノ如キハ航海ヲ以テ利ヲ營スル目的トスル船舶ニ限リ其他ノ船舶ハ海商法ノ目的タラサルナリ狹隘主義佛國商法第九十條ニハ商船其他ノ船舶トアリテ海商法上ノ船舶ハ唯リ航海ヲ以テ營利ヲ目的

トスルモノニ止マラス況ク其他ノ船舶モ海商法ノ適用ヲ受ケルモノト爲シ又
 汎博主義ヲ採用シテ我舊商法モ其第八百二十四條ニ商船其他ノ海船ト云ヒテ此
 汎博主義ヲ採用シタリシカ新商法ハ之ト異ナリテ原則トシテハ狹隘主義ヲ採
 用シタリ是ヲ以テ海商法ノ適用ヲ受ケル船舶ハ唯リ商行為ヲ爲ス目的ヲ以テ
 航海ノ用ニ供スルモノニ限リ其以外ノ目的例ヘハ國土發見ノ爲メ航海スルモノ
 ノ娛樂ノ爲メニスルモノ等ハ本法ノ適用ヲ受ケタルナリ而シテ本法カ此ノ如
 キ主義ヲ採リタルハ本法ハ素ト主トシテ商行為ノミニ關スル規定ヲ設ケタルヲ
 以テ商法全體ニ通スル立法ノ主義ト爲セルカ故ニ船舶ニ付テモ同主義ヲ採リ
 タルニ外ナラサルナリ然レトモ船舶法第三十五條ニ於テ商法第五編ノ規定ハ
 商行為ヲ爲ス目的ヲ以テセサルモ航海ノ用ニ供スル船舶ニ之ヲ準用ス但官廳
 又ハ公署ノ所有ニ屬スル船舶ニ付テハ此限ニ在ラズト規定シタルヲ以テ本法
 ノ適用ノ結果ヨリ云ヘハ本法ハ單ニ營利ヲ目的トシテ航海スル船舶ニ限ラス
 其他ノ船舶ヲモ支配スルモノナレハ右船舶法ノ存スル以上ハ其表面ハ狹隘主
 義ヲ採用スレトモ其内容ハ汎博主義ト爲レリ彼ノ千八百五十四年發布ノ英國

商船條例モ亦殆ト同一ノ規定ナリ
 官廳公署ニ屬スル船舶ハ軍艦ニ非タルモ本法ヲ準用スヘキモノニ非ス是レ海
 商法ノ私法タル性質ヨリ生スル當然ノ結果タルヲ以テナリ
 又經令商行為ヲ爲ス目的ヲ以テ航海ノ用ニ供スル船舶ニ在リテモ湖川港灣ヲ
 航行スル船舶ニ關シテハ運送ヲ爲スヲ以テ業トスル點ニ付テハ第三編第八章
 ノ規定アルヲ以テ足レリトセリ故ニ第三百三十一條「運送人トハ陸上又ハ湖
 川港灣ニ於テ物品又ハ旅客ノ運送ヲ爲スヲ業トスル者ヲ謂フ」トアル所以ニシ
 テ本法ノ適用ヲ受ケルハ唯リ海上航海ノ用ニ供スル船舶ニ限ルモノト爲シタ
 リ而シテ湖川港灣ノ範圍ハ商法施行法第二百二十二條ニ依リ逓信大臣ヲ定ム
 ルコトト爲シタルヲ以テ逓信大臣ハ明治三十二年五月二十六日省令第二十號
 ヲ發シ其範圍ヲ定メタリ湖川港灣ノ範圍ハ平水航路ノ區域ニ依ル
 眞ノ航海ニ堪ヘサル船舶ハ總テ之ヲ海上法中ヨリ除カサルヘカラス其航海ニ
 堪ヘサル船舶ニ算スルニハ船舶ノ巨大及ヒ遠洋ノ航行ヲ必要トスルニ非ス即
 チ風波ニ堪ヘ海上百種ノ變事及ヒ危險ヲ凌クノ能力アルヲ要ス而シテ此能力

アルモノハ唯リ漁船及ヒ帆船ニ限リ櫓櫂ヲ以テ運轉スル舟ノ然ラス何トナレハ櫓櫂ヲ以テ運轉スルモノハ海上ノ變災ニ堪ヘス遠洋ノ航行ニ適セザレハナリ而シテ櫓櫂ヲ用フル小舟ト雖モ併セテ帆ヲ用フルノ準備ナキニ非スト雖モ是レ唯附屬ニ止マリ其方小ナルカ故ニ此ノ如キモノハ帆ヲ備フルト雖モ未タ以テ法律上海船ト視ルヘカラザルナリ

○船舶ノ屬具 第五百三十九條 船舶ノ屬具目錄ニ記載シタル物ハ其從物ト推定ス(舊商法第八三八條、佛商法第一九一條、獨商法第四四三條)

船舶トハ船體其物ノミヲ指スニ非スシテ之ニ附著セル枕檣、帆、機關、碇、錨、船網具其他ノ物ヲ包含セル名稱ナリ是レ猶ホ家屋ノ名稱中ニ其從物タル棧、建具ヲ包含スルト一般ナリ而シテ新商法ハ如何ナル物カ船舶ノ從物ナルカ一之ヲ指示セス單ニ船舶ノ屬具目錄ニ記載シタル物ヲ從物トストノミ云ヘリ蓋シ新商法カ舊商法ノ如ク列舉主義ヲ採ラスシテ右ノ如ク概括的ニ之ヲ規定シタルハ他ナシ若シ之ヲ列舉スルトキハ往往ニ之ヲ脱漏ヲ生スルノ虞ナキニ非ス縱令列舉シタル物ニシテ今日脱漏ナキモ世ノ進歩ト共ニ他日屬具ノ種類ヲ増

スコトアル場合ニ於テ本法ノ規定ノ適用ヲ受ケザルコトノ虞アルヲ以テナリ而シテ法律ハ第五百六十二條第三號ニ屬具目錄ハ之ヲ船中ニ備ヘ置クヘキコトヲ船長ノ義務ト爲シタレハ船舶ノ屬具ハ必スヤ之ニ記載セラルヘキナリ船中ニ備ヘ置ケル屬具ハ多クハ船舶所有者ノ所有ナルヘシト雖モ屬具目錄ニ記載セシ物亦必スシモ船舶所有者ノ所有ニ非スシテ或ハ他人ノ物ヲ以テ之カ用ヲ充タスコトナキヲ保セザレトモ法律ハ多數ノ場合ヲ想像シテ船舶ノ屬具目錄ニ記載シタル物ハ之ヲ其從物ト推定シタル所以ナリ但シ其所有者ハ推定ニ關スル一般ノ原則ニ從ヒテ自己ノ所有ナルコトノ反證ヲ舉ケ船舶カ賣却セラレ若クハ差押ヲ受ケタルカ如キ場合ニ於テ之ヲ取還スルコトヲ得ヘキハ勿論ナリ

法律カ船舶ノ屬具ヲ其從物ナリト規定スルト否トニ依リテ實際上ノ利益ニ大ナル關係ヲ有セリ例ヘハ船舶ノ所有權移轉ノ場合船舶ヲ保險ニ付シタル場合及ヒ共同海損ノ場合等ニ於テ船舶ノ屬具カ其從物ニ非ストスルトキハ船舶ヲ賣却シタル場合ニ屬具ハ其中ニ包含セス船舶ヲ保險ニ付シタルトキ其屬具カ

海難ニ依リテ滅失シタルトモ船舶ノ被保險者ハ保險者ヲシテ之カ損害ノ填補ヲ爲サシムルコトヲ得ス又共同海損ノ場合ニ於テハ船舶ノ價格ヲ算定スルトキ屬具ノ價格ハ其中ニ算スルコトヲ得ス尙ホ其外船舶債權者カ船舶ニ對シテ其擔保權ヲ實行スル場合ニ於テモ亦之ニ類スル利益アルヲ見ル

茲ニ注意スヘキハ船舶ノ屬具ハ其物件ニシテ苟モ航海ノ爲メニ用フヘキモノナレハ實ニ之ヲ用フルニ非スシテ唯其要用ノ時ニ供スルモノタリトモ亦此中ニ算スルコト是ナリ故ニ豫備機檣豫備帆布等既ニ作成シタルト材木白布鐵厚板等ノ如ク原料品トシテ存スルトラ問ハス屬具目錄ニ記載セラレタル物ハ若屬具ノ中ニ算スルナリ之ヲ要スルニ船舶ノ從物トハ總テ船舶ニ附屬シテ其用ニ供スルモノナリ然レトモ縱令航海中船舶ノ爲メニ用フル物ナリト雖モ船舶所有者ニ屬セス船長船員又ハ旅客ノ私有タル物件ハ從物ニ算スヘカラサルナリ例ヘハ航海用地圖海圖書籍望遠鏡時辰儀等ニシテ船長船員ノ所有ナル場合ノ如キ是ナリ若シ此等ノ物件ニシテ屬具目錄中ニ記載セラレタルトキハ既ニ叙述スルカ如ク其所有者ヨリ自己ニ屬スルコトノ立證ヲ爲ササルヘカラス

○船舶ノ登記及ヒ國籍證書 第五百四十條 船舶所有者ハ特別法ノ定ムル所ニ從ヒ登記ヲ爲シ且ツ船舶國籍證書ヲ請受クルコトヲ要ス前項ノ規定ハ總噸數二十噸未満又ハ積石數二百石未満ノ船舶ニハ之ヲ適用セス舊商法第八二五條第一項第八二六條千八百四十五年六月十三日ノ佛國法律

船舶所有者カ船舶ノ國籍證書ヲ請受クルコトハ國ト船舶所有者トノ關係公法關係ニシテ舊ニモ說キタルカ如ク是レ私法タル商法ノ目的ニ非サルヲ以テ又船舶ノ登記ハ私法關係ナレトモ本法ニ規定セザルヲ便宜ナリトスルヲ以テ本法ハ之ヲ特別法ニ讓リタリ然レトモ此二者ハ海商法ノ目的タル船舶ト密著ノ關係ヲ有スルヲ以テ之ニ關スル概念ヲ茲ニ叙述セン

舊商法ノ規定ユテハ船舶所有者ハ管海官廳逕信省海事局明治三十二年六月勅令第二百六十三號ヨリ船舶證書ヲ受ケタル後船舶港ヲ管轄スル裁判所ニ於テ船舶登記簿ニ登記ヲ受ケ且ツ必ス其登記證書ノ交付ヲ受クルコトヲ爲シタルトモ本法ニ於テハ二者ノ必要ヲ認メス唯リ船舶國籍證書ノミニテ見レリト爲セリ蓋シ舊商法カ二者ヲ併セテ必要ナリト爲シタルハ國籍證書ハ行政監督ノ

爲メニシ登記證書ハ私権ノ證明ノ爲メニモ越意ナルヘシト雖モ本法ニ於テハ船舶ノ登記ハ不動産ニ於ケル登記ト同シタ單ニ之ヲ登記セシムルハ足ルモノニシテ常ニ必スシモ其登記證書ノ交付ヲ受ケテ之ヲ所持セシムルコトヲ要セザルヲ以テ船舶登記證書ニ付テハ敢テ之ヲ規定セザルナリ

其後第三十四條ノ規定ニ從ヒ明船舶ノ登記ニ關スル特別法船舶登記規則ハ船舶法第三十四條ノ規定ニ從ヒ明治三十二年六月十五日勅令第二百七十號ヲ以テ發布セラレタルカ船舶ハ所有權抵當權及ヒ貸借ニ關スル登記ヲ爲スコトヲ得ルモノニシテ同規則ニ於テ動産登記ノ規定ヲ準用スルモノ數多アレドモ亦特別ノ規定甚タ多シ而シテ明治十九年八月法律第一號登記法中船舶ノ登記ニ關スル規定ハ船舶法ヲ施行ト共ニ廢止セラレタリ

舊商法ニ於テハ日本船舶タル爲メニ要スル條件ヲ定メ日本船舶ニ非ナレハ日本ノ國旗ヲ掲ケル權利ヲ有セズ其積量十五噸以上ノ船舶ハ總テ航海ノ用ニ供スル前測度ヲ受ケルキ旨ヲ規定舊商法第八二四條第八二五條シタレトモ此等ノ事項ハ總テ公法關係ナルヲ以テ法律ハ之ヲ海商法中ニ置カズシテ船舶法

產手續終局後尙ホ期限ノ到來セザルニ於テハ破産者其人ニ對シテ請求ヲ爲スコトヲ得スト云ヘリ我商法第九百八十八條第一項「破産者ノ債務」ト明言シ瑞典破産法ト其文例ヲ同シタスト雖モ民法第三百七十七條第一ハ債務者ニ對スルモノタルコトヲ明示シタルヲ以テ破産者其人カ期限ノ利益ヲ喪失スト謂ハサルヲ得ス隨テ破産者ノ債務即テ破産債權ハ破産手續上完済セラレタル場合ニ於テ其手續終局後尙ホ辨濟期ノ到來セザルニモ拘ラス破産者ニ對シ履行ヲ請求シ得ヘキモノト論結セザルヲ得ス斯ル論結ハ理論上甚タ失當ナリ何トナレハ請求權ノ發生ハ總債權者ニ破産財團ヨリ平等ノ満足ヲ得セシムルカ爲メナラバ以テ破産者其人ニ對シ辨濟期ノ至ラタルニモ拘ラス尙ホ其權利ノ實行ヲ爲スコトヲ得ルト云フハ立法上ノ目的ノ範圍ヲ超越シ大ニ點ニ失スト謂フヘク且ツ此ノ如キハ期限ヲ以テ債務者ノ支拂實力上ノ信用ニ基クト云ヘル單純ノ思想ニ基クニ過キサレハナリ而シテ前示何レノ論結ニ依ルモ破産者ノ債務ノミカ請求權ヲ發生スルモノナルヲ以テ破産者ノ保證人其他ノ共同債務者ニ對シテハ何等ノ影響スル所ナシ何トナレハ破産手續ノ外ニ請求權ヲ發生セ

ムルノ理由ナク且ツ他人ノ行為ニ因リ不利益ヲ被ムルヘキ謂レナケレハナリ
 唯例外トシテ第一ニ保證人ヲ破産宣告ヲ受ケ爲メ無資力ト爲リタルトキハ
 主タル債務者ハ債權者ノ求メニ因リ他ノ有資力ナル保證人ヲ立ツル義務ヲ
 フ民法第四五〇條佛蘭西民法第二〇二〇條第二ニ爲替手形及ヒ約束手形ノ主
 タル義務者爲替手形ニ引受メ又ハ引受ナキ爲替手形ノ振出人又ハ約束手形ノ
 振出人カ破産宣告ヲ受ケタル後モ其手形ノ償還義務ニ付キ辨濟期ノ到來シタ
 ルモノトシ所持人ハ振出人及ヒ裏書譲渡人ニ對シテ償還請求ヲ爲スコトヲ得
 是レ手形ノ確實ヲ期スルカ爲メミナラス主タル義務者ノ破産ニ因リテ信用
 ヲ失ヒタル手形ヲ手形トシテ存在セシムルモ其效用ヲ全ウスルコト能ハサレ
 ハナリ第九八八條第二項舊商法第七九條新商法第四八〇條參考獨逸手形法
 第二九條佛蘭西商法第四四四條第二項白耳義商法第四四九條等我新商法第四
 百八十條ハ舊商法第七百七十九條ヲ修正シタルヲ以テ商法第九百八十八條第
 二項ノ修正アルハ當然ナルヘキニ何等ノ規定ナキハ寧ロ失當ナルヘシ
 優先權ハ其義務者ノ破産宣告ヲ受ケタルニ因リ直チニ實行スルコトヲ得ルヤ

否ヤノ問題ニ關シ佛派ノ立法例ハ甚タ明瞭ヲ缺キ爲メニ學者ノ論争ヲ招キタ
 リ或ハ佛蘭西商法第四四四條カ通常債權者ト優先權アル債權者トノ間ニ何等
 ノ區別ヲ設ケザリシテ理由トシテ積極的ニ論決シ或ハ質權抵當權ノ如キ優先
 權アル債權者カ其優先權ヲ實行スルハ破産手續ノ外ニ於テスルモノナルヲ以
 テ辨濟期ニ至リタルモノト看做スノ破産規定ヲ適用スルハ甚タ失當ナリトシ
 テ消極的ニ論決シタリ獨派ノ立法例ニ獨逸破産法瑞西破産法奧太利破産法等
 ハ優先權ノ實行ハ別除ノ權トシテ破産手續ノ外ニ在ルヲ以テ破産手續内タル
 請求權發生ハ適用ナシト認メタリ我商法第九百八十八條第一項ハ破産者ノ債
 務ト云フニ止メタルヲ以テ優先權ノ實行ニモ亦同條ヲ適用スルカ如キ觀アレ
 トモ理論上優先權ノ實行ハ別除權トシテ破産手續ノ外ニ在ルヲ以テ消極的ニ
 論決スルヲ正當ト信ス
 (二)破産者ノ法律行為ノ履行ニ對スル效力
 債權者カ破産宣告ヲ受ケル以前ニ於テ未タ處分能力ヲ喪失セザルヲ以テ嫌疑
 時代ニ關係ナキ法律上(第九九〇條第九九一條ハ原則トシテ)有效ニ存在スルヲ

當然トス然レトモ民法商法破産法等ハ例外ナシテ特定ノ法律關係ニ破産宣告ノ影響ヲ蒙ラシメ或ハ之ヲ消滅ノ原因トシ或ハ之ニ特別ノ效力ヲ結合シタリ(第六九條第七四條第二一條、第四〇四條、第四〇五條等、舊商法第六九九條第三九九條、民法第六八條第六二一條、第六三一條、第六四二條、第六五三條、第六七九條)破産宣告ノ當時破産者及ヒ其相手方ノ未タ履行セズ又ハ履行ヲ終ラサル雙務契約ハ當事者ノ一方ヨリ無賠償ニテ解除スルコトヲ得雙務契約トハ當事者ノ一方ノ爲スヘキ給付カ他ノ一方ノ爲スヘキ給付ト相對シ且ツ經濟上報酬タルノ契約ニシテ其給付カ同時の履行ヲ要スルト豫先の履行ヲ要スルトヲ問ハサルモノタリ賣買交換ノ類故ニ斯ル契約カ破産手續開始ノ當時未タ孰レノ一方ヨリモ完全ニ履行セラレタリシトキハ法律上及ヒ經濟上互ニ關聯シタル二箇ノ債權カ存立ス(此一箇ノ債權ハ其發生原因カ同一ノ契約ニ在ル點ニ於テ法律上互ニ關聯シ其目的タル給付カ互ニ對價タルノ點ニ於テ經濟上關聯スルハ當然ナリ)此關聯ハ當事者ノ一方ノ財產ニ對シ破産手續カ開始セラレタルノ故ヲ以テ破産セラレルモノニアラス蓋シ反對ニ論結セバ破産宣告ヲ受ケサル當事

者ノ一方ハ破産者ノ有スル債權ヲ完全ニ履行シ自己カ破産者ニ對シテ有スル債權ニ關シテハ破産債權トシテ配當額ヲ以テ満足セザルヲ得サルノ不公平ニシテ且ツ當事者ノ意思ニ反スル結果ヲ生スルヲ以テナリ又破産者タル當事者ノ一方ハ破産手續開始ノ結果處分能力ヲ喪失シ爲メニ自ラ其義務ヲ履行シ得タルヲ敢テ疑ナシト雖モ管財人ハ之ニ代リテ有效ニ破産者ノ義務ヲ履行シ得タルモノニアラス故ニ破産宣告以後ニ於テモ雙務契約ヲ有效ニ存續セシメ管財人ヲシテ代リテ義務ヲ履行セシムルコトハ法律上其當ヲ得タルニ似タリト雖モ必ス常ニ斯ル方法ヲ採ルヘキモノトモハ管財人ハ往往破産財團ノ缺乏ノ爲メニ完全ニ義務ヲ履行スルコトヲ得サルコトアルヘク縱令破産債權者ノ一人タル雙務契約ノ相手方ニ對シテ完全ニ義務ヲ履行スルコトヲ得ヘトスルモ他ノ破産債權者ニ對シテハ完済ヲ爲ヌヲ得サルコトアリ斯ル結果ハ破産債權者ニ損失ヲ分擔スルノ原則ニ違背シ一破産債權者ノ只カ完全ナル満足ヲ享有スルコトニ外ナラス是ヲ以テ法律ハ雙務契約ノ當事者雙方ニ無賠償ノ解除權ヲ認メ殆ト完全ナル辨済ヲ得タルト同一ノ實ヲ得セシメタリ第九九三條

第一項 獨逸新破産法第一七條第一項 同舊破産法第二五條第二項 奧太利破産法第二二條第二三條 白耳義商法第四五三條 佛蘭西商法第五七六條 第五七七條 國民法第一一八四條 第二〇二條 第四號 佛蘭西商法 取戻權ノ題下ニ於テ 動産ノ買買ニ關シ 買主カ破産シタル場合ニ於テ 買主ノ爲メニ 解除權ヲ認メタリ而シテ 破産債權者間ニ於ケル平等ヲ害スルヲ恐レ大ニ其應用ニ付キ 制限ヲ加ヘタリ 解除ノ手續ハ民法ノ規定ニ因ル(民法第五四〇條 第五四一條等) 破産宣告ヲ受ケタル當事者ノ一方ニ契約解除權ヲ認メタルハ 相手方ノ破産ノ爲メニ不公平ニシテ且ツ自己ノ意思ニ反スル結果ヲ蒙ラシムルコトナカラシムルニ外ナラサルコトハ前述ノ如クナルヲ以テ 管財人ハ 雙務契約ノ存續ヲ破産債權者團體ノ利益ナリト認メタル場合ニ於テ 破産者ノ義務タル給付ヲ財務債務トシテ 完済シ 相手方カ豫先ノ反對給付ヲ爲スヘキトキハ 相手方カ其義務ヲ履行シタル後ニ於テ 財團債務トシテ 義務ヲ履行スルヤ當然ナリ以テ 相手方ニ其義務タル反對給付ト 完済ヲ請求スルコトヲ得ヘシ 蓋シ斯ル場合ニ於テ 何等ノ損害ヲ受タルコトナキヲ以テ 強テ 雙務契約ヲ解除セシムルノ理ナケレハ

ナリ 然レトモ 債務者タル破産者ノ義務ノ目的カ 其一身ニ專屬スル行爲著作ノ如キニシテ 管財人カ債務者トシテ 完全ニ履行スルコトヲ得サルトキハ 管財人カ相手方ニ對シ 其反對給付ノ履行ヲ請求スルコトヲ得ス(獨逸新破産法第一七條 第一項 管財人ハ此ノ如ク 相手方ニ對シ 其義務ノ履行ヲ請求スルノ權アルヲ以テ 事物ノ狀態ヲ永久ニ不確定トシ 相手方ニ損害ヲ蒙ラシムルカ如キコトヲ避ケルカ爲メニ 相手方ノ催告ノ有無及ヒ 履行期到來ノ如何ニ拘ラス 相手方ニ對シ 雙務契約ヲ存續セシメ以テ 其履行ヲ請求スル者ノ意思ヲ適當ノ時間内ニ表示セタルヘカラス 若シ 管財人カ相手方ノ催告アルニモ 拘ラス 遲滞ナク 斯ル表示ヲ爲サザリントキハ 雙務契約ノ履行ヲ請求スルノ權ヲ喪失ス(獨逸新破産法第一七條 第二項 破産宣告ヲ受ケタル當事者ノ一方ハ 管財人ト異ニシテ之ニ對シ 其契約ノ履行ヲ欲スルヤ否ヤノ意思ヲ表示スヘキ旨ノ催告ヲ爲スコトヲ得ルニ止マリ 其契約ノ履行ヲ請求スルコトヲ得ス 管財人カ契約ノ履行ヲ欲スル旨ノ意思ヲ表示セタル場合ニ於テ 又債務者タル破産者ノ所有ヲ專屬シタル給付ノ目的物ノ一部ノ返還ヲ請求スルコトヲ得ス 蓋シ該當事者ハ 破産債權

者タルニ過キタルヲ以テ破産手續ニ依ラスシテ自己ノ權利ヲ全クスルコトヲ得
 ナレハナリ然レトモ該當事者ハ契約不履行ヲ理由トシタル破産者ニ對スル損
 害賠償ノ請求ヲ破産債權トシテ主張スルコトヲ得ヘシ何トナレハ斯ル請求ハ
 破産宣告以前ニ於テ成立シタル契約ヨリ生スル副位的請求ナルヲ以テ破産債
 權タルニ妨ケナケレハナリ(獨逸新破産法第二六條第二項)而シテ斯ル場合ニ於
 テハ破産手續終局以後破産者ニ對シ從前ノ請求即チ義務ノ本旨ニ從テ請求ヲ
 爲スコトヲ得タルヤ當然ナリ(損害賠償ノ請求ヲ爲サザリシトキハ反對ニ論結
 セサルヘカラス但シ破産者ハ協賛契約ノ成立ニ際シ相手方タル當事者ノ一方
 ナシテ其有スル損害賠償請求權ニ對スル協賛契約上ノ割合額ニテ満足セサル
 ヲ得テラシムルコトヲ得蓋シ斯ル損害賠償請求權ハ縱令破産手續上主張セテ
 然レト雖モ元來破産債權ニ外ナラシレハ協賛契約ニ基テ制限ヲ受ケサルヲ得
 ナレハナリ又破産者ニ對スル雙務契約上ノ債務履行ノ請求ヲ破産手續ニ於テ
 主張シ該雙務契約ニ基テ自己ノ債務ハ之ヲ破産法ニ從ヒテ他ノ破産者ニ對ス
 ル破産債權ト相殺スルコトヲ得何トナレハ相殺ハ破産債權者ノ權能ナレハナリ

(第九九五條第一項)雙務契約カ其當事者ノ一方ニ對スル破産手續開始以前已ニ
 孰レカノ一方ヨリ完全ニ履行セラレタルトキハ唯一ノ債權ノミヲ存スルニ過キ
 ス而シテ該債權ハ債務ヲ完済シタル當事者ノ一方カ破産者ナルトキハ破産財
 團ニ屬スル財産アリ故ニ管財人ハ相手方ニ其義務ノ履行ヲ請求スルコトヲ得
 又此法ニ從ヒテ相手方ノ不履行カ破産者ニ爲メニ契約解除ノ原因ヲ爲ストキ
 ハ之ヲ解除シ破産者ノ給付シタル目的物ノ取戻ヲ請求スルコトヲ得ヘシ民法
 第五四〇條以下但シ相手方ノ爲メニ契約解除ノ原因ヲ爲ストキハモトナ
 ルトキハ此限ニ在ラス何トナレハ斯ル給付ハ破産財團ニ屬セサルヲ以テナリ
 而シテ相手方ハ已ニ破産者ヨリ其義務ニ屬スル給付ヲ受取リタルモノナルヲ
 以テ契約ヲ解除スルノ利ナキヤ當然ナリ又該債權ハ債務ヲ完済シタル當事者
 ノ一方カ破産者ニアラサル者ナルトキハ破産債權タリ故ニ債務ヲ完済シタル
 當事者ハ反對給付ヲ目的トスル請求權若クハ債務ノ不履行ノ爲メニ破産手續
 開始以前ニ於テ已ニ發生シタル損害賠償請求權ヲ破産手續ニ於テ主張スルコ
 トヲ得ルニ過キス蓋シ相手方ノ破産宣告以前ニ於テ給付シタル目的物ハ破産

財團ノ一部分ヲ爲シ總破産債務者ノ平等満足ノ用ニ供スヘキモノナレハナリ
但シ破産者ノ債務ノ目的タル給付カ破産者ニ專屬スヘキモノニシテ破産財團
ニ關係ナキカ相手方カ別除請求權ヲ有シタルカ又ハ相手方カ破産宣告以前ニ
於テ破産者ノ債務不履行ノ爲メニ民法ノ規定ニ從ヒテ契約ヲ解除シ自己ノ給付
シタル目的物ノ取戻請求權別除請求權ヲ有スルトキハ此限ニ在ラス何トナレ
ハ別除請求權取戻請求權ハ孰レモ破産手續以外ニ於テ實行スヘキモノニシテ
又破産者ニ專屬スル破産者ノ債務ノ目的タル給付ハ破産債權者團體ノ利益ニ
關係ナケレハナリ(第九九四條) 獨逸舊破産法第二一條、同新破産法第二六條、瑞西
破産法第二一二條、（註） 以上雙務契約ニ關スル法則ハ民法及ヒ商法等ニ於テ特別ニ規定シタル雙務契
約ニ基テ法律關係ニ適用ナシ、（註） 第一ニ貸借關係ニ於テ貸借人カ破産宣告ヲ受ケタルトキハ破産債權者團體ハ
其有スル差押權ニ基キテ貸借人タル破産者ノ貸借權ヲ破産宣告以後ニ於ケル貸
金支拂義務ト共ニ承繼スルコトヲ得ヘシ蓋シ貸借權ハ亦破産財團ニ屬スヘキ

財產權タレハナリ破産債權者團體カ承繼スルコトヲ欲セサルトキハ破産者ハ
相手方トノ間ニ於テ貸借關係ヲ存續シ貸借人ハ破産シタル貸借人ノ十分ナ
ル擔保ヲ供セサルノ故ヲ以テ其存續ヲ拒絕スルコトヲ得第九九三條第二項民
法第六二〇條參考此場合ニ於ケル損害賠償請求ハ一ノ破産債權タリ(管財人ヲ
以テ破産者ノ代理人ナリトセハ斯ル論旨ハ無益ナルヘシ然レトモ管財人カ必
ズ破産手續ノ終局ニ至ルマテ破産債權者團體ノ爲メニ破産財團ノ費用ニ於テ
貸借關係ヲ維持スルコトヲ要スヘキモノトセハ破産手續ノ目的ニ反スルコ
トアリ又貸借人カ破産債權者團體ノ從來ノ貸借人ニ代ルコトヲ耐忍スヘキコト
ハ其意思ニ反スルヤ必然ナリ是ヲ以テ我民法第六百二十一條ハ破産手續ノ繼
續中管財人及ヒ貸借人雙方ニ解約ノ申入ヲ爲ス權利ヲ認メタリ獨逸新破産
法第一九條第一項、第二〇條第一項、獨逸破産法ニ於テハ貸借人ニ其破産宣告
ヲ受クル以前ニ於テ貸借ノ目的物ノ交付アリタルト否トヲ區別シ後者ノ場
合ニ於テハ貸借人ハ契約ヲ解除スルコトヲ得セシメ之カ爲メニ生シタル損害
賠償請求ヲ認メス而シテ獨逸新破産法第二十條第二項ニ從ヘハ貸借人ハ管財

人ノ催告ニ因リ遲滞ナク解除スルヤ否ヤノ意思ヲ表示スルノ義務ヲ負ヒ之ヲ履行セザルトキハ解除權ヲ喪失シ前示雙務契約ノ解除ニ關スル法則即チ獨逸新破産法第七條ノ適用トシテ管財人カ破産債權者團體ノ爲メニ貸借契約ノ履行ヲ請求スルコトヲ得ルニ至ル前者ノ場合ニ於テハ我民法ト同シク管財人及ヒ貸借人ニ解約申込ヲ爲スノ權利ヲ認メタリ而シテ此區別ヲ爲スノ理由ハ後者ノ場合ニ於テハ破産債權者團體カ破産者タル貸借人ニ代ルニ付キ毫モ正當ナル利益ヲ有セス前者ノ場合ニ於テハ即時ノ解除カ不當ナル損失ヲ醸スニ至ルヘクレハナリト云フニ在ルモノノ如シ我民法ニ於テ斯ル區別ヲ爲サザリシハ立法上正當ナルヤ否ヤハ頗ル疑問ニ屬ス解約ノ申入バ契約ヲ解除スルニテナラズシテ契約ノ爾後ニ存続スルコトヲ除去スルニ過キス其申入ノ方済及ヒ貸借ノ終了スヘキ期間ハ民法第六百十七條ノ定ムル所ナリ第九九三條第二項而シテ其期間即チ貸借ノ終了マテハ管財人カ破産債權者團體ノ爲メニ貸借借ノ目的物ヲ使用及ヒ收益シ又貸金ハ破産財團債務トシテ之ヲ支拂フヘキモノナリ管財人カ解約申入ヲ爲セタルトキハ獨逸新破産法第十九條後段ニ於テ

貸借人ニ約定期以前ニ於ケル契約ノ終了ヨリ生スル損害賠償請求權ヲ認メ破産債權トシテ主張スルコトヲ得セシメタレトモ我民法第六百二十條ハ之ニ反對シタリ蓋シ獨逸破産法ノ如クニ締結セハ權利實行ナリトノ觀念ニ背馳シ且ツ管財人ヲシテ事實上解約申入ヲ爲スヲ得サラシムルニ至ルトノ理由ニ基キモノナルヘシト雖モ管財人ノ解約申入ハ破産債權者團體ノ利益ノ爲メニ貸借借人ノ破産財團上ノ請求權トシテノ主張ヲ排斥スルニ止マリテ不履行ニ因リ相手方ニ生シタル損害賠償請求權ヲ排斥スルコトヲ得ルノ力アルモノニアラス故ニ立法上我民法ヲ正當ナリト認ムルコトヲ得ス貸借人カ解除申入ヲ爲シタルトキハ當然不履行ニ基キ損害賠償請求權ヲ有セル破産債權者團體若クハ破産者亦然リ蓋シ解約申入ノ原因タル破産手續開始ニ關シテハ破産者其人カ責ニ任スヘキ所ナレハナリ佛蘭西商法第四五〇條第五五〇條白耳義商法第四五七條伊太利商法第七〇二條埃太利商法第二三條等解約ノ申込ヲ爲サスシテ貸借借カ存続シタルトキハ貸借人ノ貸金支拂ノ義務其他ノ義務ハ破産手續繼續中財團債務タルノミ

貸貸人カ破産宣告ヲ受ケタルトキハ之カ爲メニ破産債權者團體カ自由ニ貸借人ノ權利ヲ害スルコトヲ得サルヲ以テ貸借關係ハ破産債權者團體ニ對シテ尙ホ有效ニ存續シ破産債權者團體ハ破産者タル貸貸人ト同シテ貸借人ニ對シテ使用收益ノ爲メニ目的物ヲ交付スルノ義務ヲ負ヒ又貸金ヲ取立ツルノ權利ヲ有ス而シテ破産手續ノ目的ヲ達スルカ爲メニ必要ナル破産財團ノ換價ハ貸借關係ノ存續ノ爲メニ妨ケラレルモノニアラザルヲ以テ管財人ハ貸借ノ目的物ヲ任意賣却シ又ハ強制競賣ニ付スルコトヲ得此場合ニ於ケル賣却ト貸借トノ關係ハ民法及ヒ民事訴訟法ニ依リテ之ヲ定ム獨逸新破産法第二一條第三項同條第一項ハ破産手續開始以前ニ於テ貸借人ニ其目的物ノ引渡アリタルキニ於テノミ前述ノ如キ法則ヲ是認シ反對ノ場合ニ雙務契約ニ關スル一般ノ法則ニ依ラシメタリ)

第二ニ雇傭關係ニ於テ使用者カ破産宣告ヲ受ケタルトキハ貸借關係ニ於ケルカ如ク勞務者又ハ管財人ヨリ解約ノ申入ヲ爲スコトヲ得民法第六三一條獨逸新破産法第二二條但シ同條ハ貸借關係ニ於ケルカ如キ區別ヲ設ケアリ而

シテ破産宣告マテニ於ケル報償請求權ハ破産債權ニシテ破産宣告以後ニ於ケル報償請求權ハ破産財團上ノ請求權ナリ蓋シ破産債權者團體カ解約申入權ヲ留保シテ破産者タル使用者ニ代リタルモノナレハナリ但シ勞務ノ性質カ使用者及ヒ其家族ニ專屬スルモノナルトキハ(教育ヲ爲スノ勞務、乳母トシテノ勞務ノ類破産債權者カ使用者ニ代リテ其權利ヲ承繼スルモノニアラサルヤ當然ナリ其他詳細ノ説明ニ關シテハ前述シタル貸借關係ノ説明ヲ參考スヘシ)勞務者カ破産宣告ヲ受ケタルトキハ之カ爲メニ使用者ニ對シテ約定ノ勞務ニ服スルコトヲ妨ケラレザルヲ以テ雇傭ノ存續ニ影響スル所ナシ是レ我民法及ヒ獨逸新破産法ニ於テ何等ノ規定ヲ設ケザル所以ナリ但シ已ムコトヲ得サル事由アルトキハ契約解除ノ原因ト爲ル(民法第六二八條)

第三ニ請負關係ニ於テ注文者カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ貸借人ノ破産宣告ヲ受ケタル場合ト同シテ破産債權者團體カ注文者タル權利ヲ報償ヲ與フル義務ト共ニ承繼スルコトヲ得然レトモ管財人カ破産債權者團體ノ爲メニ必ス契約ヲ存續セシメ又相手方カ注文者ノ變更ヲ耐忍セザルヲ得サルカ如キコト

ハ破産手續ノ目的及ヒ當事者ノ意思ニ反スルヲ以テ法律ハ當事者雙方ニ契約ノ解除ヲ爲スノ權ヲ認メタリ但シ各當事者ハ貸貸借ノ解約ニ於ケルト同ク解約ニ因リテ生シタル損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得ス而シテ請負人ハ其已ニ爲シタル仕事ノ報酬及ヒ其報酬中ニ包含セサル費用ニ付キ財團ノ配當ニ加入スルコトヲ得蓋シ此種ノ請求ハ破産債權ニ外ナラサルヲ以テナリ民法第六四二條 逸新破産法第二十三條第二項ハ我民法ト異ニシテ委任關係ノ法則ヲ準用スキモノト規定シタリ請負人カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ之カ爲メニ當然契約ヲ解除スヘキコトト爲ルト謂フヘカラス仕事カ第三者ノ完成シ得ヘキモノナルトキハ管財人ハ破産債權者團體ノ利益ノ爲メニ破産者以外ノ請負人ヲシテ仕事ヲ完成セシムルコトヲ得任事カ第三者ノ完成シ得ヘキモノニアラサルトキハ蓋シ如キ請負人ノ破産ハ請負人カ其仕事ニ從事スルヲ妨ケス

第四ニ委任關係ハ委任者又ハ受任者ノ破産ニ因リテ終了ス委任者ノ破産ニ因リテ委任關係ノ終了スル理由ハ破産財團ニ屬スル財産ニ關スル破産者ノ處分ハ破産債權者團體ニ對シテ無効タリ故ニ破産者ニ受任者カ爲シタル行爲ハ亦

- (一) 普通者クハ即時ノ交換ニ交換ノ約束成立ト同時ニ當時者雙方共ニ貨物ヲ相手方ニ引渡スモノヲ謂フ
- (二) 信用交換ニ當事者ノ一方カ後日相手方ノ履行ヲ得ンカ爲メニ即時ニ貨物ヲ相手方ニ引渡ス場合ヲ謂フ
- (三) 定期取引ニ將來一定ノ時期ニ於テ相互ニ貨物ノ引渡ヲ爲スヘキコトヲ約束スル場合ヲ謂フ

第二章 交換價值

凡ソ人カ交換ヲ爲スニ當リテハ其目的物タル貨財ヲ自ラ消費シテ得ラルヘキ快樂ノ程度ヲ知ルノ外各貨財ノ交換能力ヲ知ルコト必要ナリ或貨財ハ所有者ハ其貨物ヲ他人ニ與ヘ其代價トシテ其人ヨリ他ノ貨財ヲ受取ルコトヲ得ヘン此所有者ニ他物ヲ得セシムル能力ヲ名ケテ貨財ノ交換能力若クハ交換價值ト稱ス而シテ貨財ノ交換能力ハ貨財ノ分量ニ從ヒテ差アルハ勿論貨財ノ種類ノ異なるトキモ亦均シカラサルヲ常トス

現今ノ産業社會ニ於テハ人ハ多種ノ欲望ヲ有スルト同時ニ有無相通スルコト頗ル容易ナルカ故ニ例ヘバ茲ニ人アリ甲種ノ貨財既得分量多キニ過タルヲ以テ其貨財ノ一部ヲ以テ乙ノ貨財ト交換セントスルニ當リテハ唯リ甲ト乙ト快樂ヲ與フル分量ヲ比較スルニ止マラス甲ヲ以テ乙ト交換セス丙若クハ丁ト交換シテ之ヲ消費セハ乙ヲ得テ之ヲ消費シタルト其快樂ノ度孰レカ強カルヘキカヲ考量スルニ至ルヘシ相手方モ亦乙ト甲トノ快樂ヲ與フル分量ヲ比較スルニ止マラス乙ヲ以テ丙若クハ戊ト交換シテ得ル所ノ快樂ト甲ノ與フル所ノ快樂トヲ比較シタル後ニアラサレハ決シテ乙ノ貨財ヲ指テラ甲ヲ得ルコトヲ決スル能ハサルナリ加之各當事者ハ或他ノ相手方ニ就キテ交換スルトキハ一層大ナル對價ヲ得ルノ望アルカヲ探究スヘキナリ若シ之ヲ等閑ニ付スルトキハ當事者カ交換ニ因リテ得ル所ノ利益大ニ減少スヘシ換言スレハ交換者ハ其目的物タル貨財ノ交換能力ヲ知ルノ必要アルナリ而シテ愈々交換實行セラレテ甲ト乙ト交換セラレタルトキハ甲ノ價格ハ之ト交換セラレタル乙ノ分量ナリト云フナリ乙ノ方ヨリ觀レハ乙ノ價格ハ之ト交換セラレタル甲ノ分量ナリ例

ヘハ牛一頭ト馬一頭ト交換シタルトキハ牛一頭ノ價格ハ馬一頭ナリ馬一頭ノ價格ハ牛一頭ナリ而シテ貨幣ヲ以テ示サレタル價格ハ特ニ代價又ハ物價ト稱ス例ヘハ馬一頭ノ價格ハ金百圓ナリト云フヘキ場合ニ馬一頭ノ代價ハ金百圓ト云フナリ

一定ノ時ト所トニ於テ或貨物ノ一定量ハ何故ニ他物特定ノ分量ト交換セラレ其レヨリ多量若クハ少量ノモノト交換セラレタルカノ理由ヲ示スモノヲ價格ニ關スル法則ト謂フ今茲ニ此法則ヲ述フルニ先チテ豫メ二三ノ語ノ意義ヲ確定シ置クノ必要アリ

(一) 需要ト供給

需要トハ購買スル資力アル人ノ欲スル或貨物ノ分量ヲ謂フ

供給トハ一定ノ時期ニ販賣ノ爲メニ提供セラレタル或貨物ノ分量ヲ謂フ

(二) 生産ノ實費及ヒ生産費

生産ノ實費トハ生産ノ爲メニ消費セラレタル資本ノ貯蓄ニ必要ナル節欲ト之ニ與リタル勢力トヲ謂フ

生産費トハ生産ノ爲メニ消費シタル貨財ト使用シタル勢力ニ對シテ支拂ハ
レタル貨幣トノ高ヲ謂フ

(三) 市場ト市價

市場トハ賣主ト買主トノ交通自由自在ニシテ同一ノ貨物ノ代價ヲ容易ニシ
テ且ツ迅速ニ均一ニ歸スヘキ傾向ヲ有スル地方全體ヲ謂フ
市價トハ一定ノ時期ニ市場ニ於テ取引セラルル物ノ代價ヲ謂フ
價格ニ關スル法則 物價ハ需要ト供給トノ平均ニ依リテ定マルモノナリ
何レノ時何レノ市場ニ於テモ賣主間及ビ買主間ニ競争アリテ賣主ノ賣ラント
欲スル高ト買主ノ買ハント欲スル分量トカ相一致スルカ如キ物價ニテ取引セラルル
モノナリ若シ或一部ノ賣主カ賣主ノ賣ラント欲スル高カ遙ニ買主ノ買ハント
欲スル額ヲ超過スルカ如キ價格ヲ要求スルトキハ買主ノ買ハント欲スル分量
大ニ減少スヘシ隨テ賣主ノ中ニハ賣却ノ機會ヲ失ハントテ恐レテ價ヲ低ク
シテ賣却セシムルコトヲ勉ムルモノアルヘキヲ以テ物價ハ速ニ低落スヘシ物價
愈低落スレハ之ニ伴ヒテ買主ノ買ハント欲スル額次第ニ増加シ賣主ノ賣ラン

ト欲スル分量ハ減少シ遂ニ兩者ノ分量平均スルニ至ルヘシ然ルニ物價一層下
落スルトキハ賣主ノ賣ラント欲スル分量カ買主ノ買ハント欲スル額ヨリ遙ニ
減少スルニ至ルヘシ是ニ於テカ買主中ニハ買入ノ機會ヲ失ハントテ恐レテ
更ニ高價ニ買入レンコトヲ勉ムルコトアルヘク隨テ物價ハ直チニ増進スヘク
物價次第ニ騰貴スルニ從ヒテ賣主ノ賣ラント欲スル分量ハ逐次遞減シ再ビ兩
者ノ分量相均シキニ至ルヘシ此ノ如ク賣主相互間ト買主相互間トノ競争ニ因
リテ物價ハ賣主カ賣ラント欲スル分量ト買主ノ買ハント欲スル分量トカ相一致スル
點ニ於テ定マルモノトス是レ即チ物價ハ需要ト供給トノ平均ニ依リテ定マル
モノナリト謂フ所以ナリ
物價ハ需要供給ノ平均ニ依リテ定マルモノナルカ故ニ供給ニ變化ナクシテ需
要増加スルトキハ需要者間ノ競争ヲ惹起シ物價上騰スルニ反シテ需要減少ス
ルトキハ供給者間ノ競争ニ因リテ物價下落ス又同様ノ理由ニ因リテ需要不變ニ
シテ供給増加スルトキハ物價下落シ供給減少スレハ物價騰貴スルモノナリ此
ノ如ク物價ノ變動ハ需要供給ノ變動ニ基因スルモノナルカ故ニ物價變動ノ理

ヲ知ラント欲セハ勢ヒ需要供給ノ變動原因ヲ究メサルヘカラス
 需要變動ノ原因ノ主ナルモノハ左ノ如シ
 (一) 代用品ノ價格ノ變動 或貨物ト代用セラルヘキ他ノ貨物ノ價格騰貴スルト
 キハ其貨物ノ需要ヲ増加ス此事例ハ株式市場ニ於テ特ニ顯著ナリ略相均シ
 キ危險ト利益トヲ有スルモノハ略々相等シキ價格ヲ保ツテ常トス例ヘハ如何
 ナル理由ニテモ公債ノ價格騰貴スルトキハ市公債ノ需要ヲ増加スルノ傾向
 アリ換言スレハ以前ヨリハ高價ニ市公債ヲ購求スルモノアルニ至ラン
 (二) 收入ノ變化 人カ或貨物ヲ買入レント欲スルハ消費スルコトヲ得ヘキ貨幣
 ノ分量ニ關係スルモノナリ國民中ノ一階級又ハ一箇人ニテモ其收入増加ス
 ルトキハ以前ヨリ多量ニ或貨物ヲ需要スルモノナリ例ヘハ日清戰爭後軍人
 カ種類ノ貨物ヲ多ク買入レタルカ如シ
 (三) 貨物ノ效用ノ變動 或貨物ノ新シキ用途ノ發見又ハ流用道德法律ノ變遷等
 ニ由リテ之ヲ買ハント欲スル人ノ認識スル貨物ノ效用ノ分量ニ變動アリタ
 ルトキヲ謂フ

供給變動ノ原因ハ需要變動ノ原因ニ同シ例ヘハ(一)或貨物ニ代用セラルヘキ貨
 物騰貴スルトキハ以前ヨリ高價ニアラサレハ其貨物ヲ賣却スル者ナカルヘク
 (二)賣主ノ收入減少シ貧窮ニ陥ルトキハ其以前ニ比スレハ低價ニテモ其所有物
 ヲ賣拂ハント欲スルニ至ルヘシ(三)或貨物ノ流行以前ヨリ盛ナルトキハ賣主ハ
 曩日ノ指値ニ應セザルニ至ラン之ヲ要スルニ或貨物ヲ供給バルト云フハ之カ
 對價ヲ需要スルモノナリト云フニ等シキヲ以テ供給變動ノ原因ハ需要變動ノ
 原因ト同様ナリト云フヲ得ルナリ
 物價ハ需要供給ノ變動ニ從ヒテ變動シ需要供給モ亦種種ナル事情ニ由リテ變
 動スルカ故ニ物價ハ常ニ動搖シテ其歸著スル所ナキカ如クナレトモ仔細ニ之
 ヲ觀察スルトキハ其動搖ハ或限界内ニ行ハルルノミナラス格外ナル高價若ク
 ハ低價ハ通例永續セシテ常ニ其間ニ存スル或一種ノ價格ニ歸向セントスル
 ノ傾向アルモノナリ此或一種ノ價格ヲ名クテ正常價格 *normal price* ト謂フ
 貨物ノ正常價格ハ自由制度ノ下ニ生産セラルルモノト專業ノ下ニ生産セラル
 ルルモノトノ間ニ區別アリ

(甲) 自由制度ノ下ニ生産セラルル貨物ノ正常價格

自由制度ノ下ニ引續キ生産セラレ消費セラルル貨物ノ正常價格ハ其生産費ニ依リ定マルト一概ニ論スルモ大ナル誤リナシト雖モ猶ホ精細ニ之ヲ區別スルヲ至當トス

- (一) 貨物ノ供給ヲ増加スルモ其分量ノ各單位ニ對スル生産費増加セザルモノ
- 此種類ノ貨物ノ正常價格ハ生産ニ依リテ定マルモノナリ若シ市價カ生産費以下ニ低落スルトキハ何人モ損失ヲ甘シテ生産ヲ爲ス者ナキヲ以テ生産者ハ其生産ヲ減少シ若クハ生産ヲ廢止スヘシ然ルトキハ供給減少スルカ爲メニ市價ハ再生産費ニ相當スル程度マテ騰貴スヘシ之ニ反シテ市價カ生産費ヲ起ニテ騰貴スルトキハ生産者ハ餘分ノ利益ヲ得ンカ爲メニ生産高ヲ増加スヘシ然ルトキハ供給増加スルカ故ニ市價ハ再ヒ生産費ト等シキ點マテ下落スヘシ故ニ曰ク此種ノ貨物ノ正常價格ハ生産費ニ依リテ定マルモノナリト
- (二) 貨物ノ供給ヲ増加スルトキハ其分量ノ各單位ニ對スル生産費モ亦増加ス

ルモノ

此種ノ貨物ハ引續キ且ツ永久ニ等差アル生産費ニ依リ生産セラルル此場合ニ於テハ正常價格ハ需要ヲ充タスニ必要缺クヘカラザルモノニシテ然モ最多額ノ費用ヲ要シタル貨物ノ部分ノ生産費ニ依リテ定マルモノナリ此時ニ當リテハ消費者ハ最高價ニ生産シ而モ損失ヲ受クルコトヲ欲セザル生産者ニ就テモ其貨物ヲ購求セザルヲ得ザルノ境遇ニ在ルヲ以テ廉價ニ生産シタルモノモ之ニ乘シテ其價格以下ニハ之ヲ賣却セザルヲ常トスレハナリ

(乙) 專業ノ下ニ生産セラルルモノ

此種ノ貨物ノ正常價格ハ生産者ニ最多量ノ利益ヲ與フル點ニ依リ決定セララルモノナリ而シテ其價格ハ生産費以上ニ在ルモノナリ專業者ハ他人ノ利益ノ爲メニ生産スルニアラザルヲ以テ生産費以下ニ賣却スルヲ好マザルヘシ唯生産費以下ニ賣却スルヲ欲セザルノミナラス獨占ノ地位ヲ利用シ其以上ニ賣却スルコトヲ勉ムヘシ然リト雖モ其價格餘リニ高價ニ失スルトキハ大

富豪若クハ奢侈者ニアラサレバ之ヲ需要スル者ナク隨テ其賣上總代價ヨリ生
 スル利益ハ却テ少カルヘク又生産費ト略同様ノ價格ニテ賣却スルトキニ於テ
 唯業務ノ繁忙ナルノミニシテ其利益ノ總量甚タ多カラサルヘシ故ニ專業者
 ハ需要者ノ事情ヲ察シ貨物ノ各單位ニ對スル價格ヲ前者ヨリ低クシ後日ヨ
 ヲハ高クシテ自己ノ得ル所ノ利益ノ總額最モ多キ點ニテ賣却スルコトヲ勉
 ムルモノナリ專業者ヲシテ其爲ス所ヲ恣ニセシムルトキハ總テノ消費者ニ
 對シテ同一ノ市價ニテ賣却スルヨリハ消費者ノ資力若クハ嗜好ノ如何ニ由
 リテ各別ノ代價ヲ要求スルトキハ益多量ノ利益ヲ收ムルコトヲ得ヘキコト
 ヲ發見スルニ至ラン例ヘハ鐵道旅客ノ等級別ノ如キハ幾分カ此性質ヲ加味
 シタルモノナリト云フヲ得ヘキカ如シ專業者ハ消費者ノ如何ニ由リ平常各
 別ノ價格ヲ要求スルノミナラス需要者ノ事情ヲ察シ時時其要求スル價格ヲ
 變更シテ利益ヲ増加センコトヲ勉ムルコトアルヘキ例ヘハ鐵道會社ノ行ラ
 所ノ臨時乘車費ノ割引ノ如シ又專業者ハ一人ノ買手ニ對シテ數度ノ取引ヲ
 爲スニ當リテハ初ハ高ク次ハ稍ヤ廉ニ又其次ニハ尙ホ一層廉價ニ賣却スル

カ如ク其價ヲ二三ニシテ利益ノ増進ヲ計ルコトヲ得ヘキナリ

第三章 貨幣

第一節 貨幣ノ起源

古代文化未タ開ケタル時代ニ於テハ人人皆自ラ己ノ要スル貨財ヲ生産シテ之
 ヲ消費シ貨財交換ノ行ハルルコト甚タ少シ偶或種ノ貨物ヲ過剩ニ所有シタル
 時ニ當リテ他ニ之ヲ切望スル者アルトキハ其人ニ就キテ他ノ貨物ト交換シテ
 各自其欲望ヲ充タスコトアリ此ノ如ク直接ニ欲望ノ満足ニ充ツヘキモノノ交
 換ヲ物品交換ト謂フ同ヤテ此交換ニハ左ノ不便アリ

一 需要ノ適合ヲ缺ク 物品交換カ二人ノ間ニ行ハルルカ爲メニハ各當事者
 ノ需要相互ニ適合スルコトヲ要ス例ヘハ甲ノ與ヘント欲スルモノハ乙ノ得ン
 コトヲ欲スルモノタルト同時ニ乙ノ與ヘント欲スルモノハ亦甲ノ得ンコトヲ
 欲スルモノ爲ラサルヘカラス而シテ此ノ如キ場合ハ甚タ稀ナリ偶此ノ如キコ
 トアリトスルモ人ハ容易ニ之ヲ知ルコト能ハサルナリ此不便ヲ救ハンカ爲メ

ニ文明國ニ於テハ何人モ得ンコトヲ欲スル貨物ヲ以テ交換ヲ媒介セシム
 二 價格ノ標準ヲ缺ク 交換ニ因リ利益ヲ得損失ヲ免レンカ爲メニ豫メ物ノ
 價格ヲ知ルコトヲ要ス即チ各貨物カ他ノ貨物ニ對スル交換ノ割合ヲ知ルコト
 ヲ要ス然ルニ物品交換ニ於テハ各貨物ヲ基礎トシテ之ト總貨物トノ交換ノ割
 合ヲ知ルノ必要アルカ故ニ極メテ複雑ナル相場附ヲ知悉スル必要アリ此事タ
 ル貨物ノ數増加スルニ隨ヒ益々複雜ニ爲リ其煩ニ堪ヘサルヘシ然ルニ貨物カ交
 換ノ媒介トシテ採用セララルトキハ他ノ總貨物ハ生産者ヨリ消費者ニ達スル
 間ニ於テ通常一旦貨幣ト交換セララルカ故ニ交換ヲ爲サントスル者ハ各貨物
 カ他ノ總貨物ニ對スル交換比例ヲ知悉スル要ナク單ニ各貨物ノ貨幣ニ對スル
 交換比例ヲ知ルヲ以テ十分ナリトス此ノ如ク一ノ貨物ヲ取リテ他ノ總貨物ノ
 價格ヲ計量スルトキハ各貨物間ノ價格ノ大小差違等ヲ明カニスルカ爲メニ煩
 ル便利ナリ

三 分割ノ手段ヲ缺ク 多數ノ貨物ハ其價格ヲ損スルコトナクシテ之ヲ分割
 スル能ハス穀物砂糖肉類水塊ノ如キハ自由ニ之ヲ分割シテ其價ヲ損スルコト
 ナシト雖モ衣服若クハ寶石ノ如キハ之ヲ分割スルトキハ大ニ其價格ヲ減ス少
 ヌモノナリ故ニ此等ノ物ヲ以テ其價ノ一部分ニ當ル物品ト交換セント欲セハ
 甚シキ困難ニ遭遇セラルヲ得ス然ルニ此場合ニ於テ衣服若クハ寶石ヲ以テ貨
 幣ニ換ヘ其一部分ヲ以テ他ノ物品ト交換セハ頗ル便利ナリ右ノ如ク物品交換
 ニハ之ニ伴フ困難アルヲ以テ少シク交換ノ行ハルルニ至ルトキハ一般ニ人ノ
 貴重スルモノニシテ保存ニ堪ヘ且ツ販路ヲ有スル物ヲ以テ交換ノ媒介ト爲シ
 タリ

第二節 貨幣ノ職分

一 貨幣ハ交換ノ媒介タリ 物品交換ノ行ハルルニハ各當事者ノ需要相互ニ
 適合スルコトヲ要ス例ヘハ甲ノ與ヘント欲スル所ハ乙ノ得ンコトヲ欲スル所
 ニシテ乙ノ與ヘント欲スル物ハ甲ノ得ンコトヲ欲スル物ナルコトヲ要ス然ル
 ニ此事ハ甚タ稀ナルノミナラス此等ノ事情ヲ甲乙互ニ探知スルコト甚タ困難
 ナリ若シ貨幣ノ發明アルトキハ甲ハ其餘ヲアル物ヲ賣リテ貨幣ニ換ヘ之ヲ以

テ己ノ欲スル物ヲ求ムヘク乙モ亦其餘リアル物ヲ賣リテ貨幣ニ換ヘテ以テ自己ノ得ント欲スル物ヲ購求スヘシ故ニ交換ハ最モ容易ニ行ハルルニ至ルヘシ貨幣ノ此働ヲ稱セテ交換ノ媒介ト謂フ

今日經濟社會ニ於テハ各人其業ヲ分チ産業ニ從事シ各人ハ自ラ其需要スル物品ヲ全ク製造セサルカ又ハ僅ニ其一小部ヲ製造シ其製作品ヲ他ノ製作品ニ換ヘテ生活ヲ維持ス此場合ニ於テ各人カ自己特有ノ物品ニ換ヘテ受取ルコトヲ欲スル或種類ノ貨物アルニアラサレハ各自ノ需要ヲ適合セシムルコト能ハス隨テ分業制度ナルモノハ到底發達スル能ハサルナリ

二 貨幣ハ價格ノ標準タリ 貨幣ハ交換ノ媒介タルト同時ニ價格ノ標準トシテ用ヒラルル他ノ貨物ハ常ニ貨幣ノ若干量ト交換セララルルカ故ニ此等ノ貨物ノ價格ハ皆貨幣ニ依リテ計算セララルルニ至ル此ノ如ク一ノ貨物ヲ基礎トシテ他ノ總貨物ヲ計算スルニ至リテ始メテ數多ノ貨物間ニ於ケル價格ノ多少ヲ容易且ツ明瞭ニ比較スルコトヲ得セシメ又ハ數多ノ貨物ノ集合ヨリ成ル財團ノ價格等ノ觀念ヲ明カニスルコトヲ得ヘシ

三 貨幣ハ價格ノ本位タリ 文明ノ進歩ニ伴フテ貨幣ノ第三ノ效用發生ス高工業ノ發達ニ伴フテ貸借益盛ニ行ハル或場合ニ於テハ貸與物ト同種ノ物品ヲ以テ返還セララルルコトアリ例ヘハ穀物ヲ借用シタルトキハ其同量ノ穀物ニ加フルニ穀物ノ利子ヲ附シテ返濟スルコトアリ然レトモ貸主ハ穀物ノ價格低廉ナルトキ又ハ之ヲ要セサル時ニ返濟セララルルヲ好マス借主モ亦通常一人ヨリ借受タルコト能ハサルカ如キ多數ノ物品ヲ要スルコトアリ故ニ一般ニ貴重セラルル貨物ニシテ價格ノ變動少キモノヲ取リテ貸借ノ目的物ト爲スニ至レリ是ニ於テカ貨幣ハ價格ノ本位タル職分ヲ得タルナリ

註 Booh-Bawerk 氏等ノ說ニ據レハ一國ノ生産力ノ發達スルトキハ之ニ伴フテ生産ノ手續キテ完了スル期間延長スルモノナリ間接ニシテ迂遠ナル資本制度カ直チニ消費ノ資料ヲ得ル勢力制度ニ代ハルモノナリ現在ノ仕事ハ過去ノ勞働ノ結果アリテ始メテ之ヲ行フコトヲ得ヘク現在ノ業務ハ未來ノ事業ノ豫備ニ過キサラムノ甚タ多シ隨テ時間ナルモノカ生産ニ大關係ヲ有スルニ至レリ又分業制度及ヒ資本制度ノ下ニ在リテハ生産ト交換トハ相密著

シテ離ルヘカラス又極端ニ云ハハ交換ハ生産手續ノ一部ナリト謂フコトヲ
得ヘシ面シテ此交換ハ契約ニ因リテ行ハル而シテ契約ハ結約ノ時ヨリ履行
ノ時ニ至ルマテ一定ノ期間アルコトヲ通例トス是レ貨幣本位必要ノ起ル所
以ナリ

四 貨幣ハ價格ノ貯藏タリ 人ハ時時其資産ヲ形體重量共ニ少キモノニ換ヘ
テ之ヲ保存スルノ必要ヲ感スルモノナリ例ヘハ其資産ノ一部ヲ遠隔ノ地ニ送
リ又ハ之ヲ携帶セントスルトキノ如シ面シテ最モ能ク此要求ヲ充タス物ハ流
通貨幣ナリ古來貨幣トシテ用ヒラレタル貨物ハ其種類甚タ多シ家畜、奴隸、毛皮、
油、煙草、干魚、鹽、茶等ノ如キモ一度ハ貨幣トシテ用ヒラレタルコトアリ其後次第
ニ各種金屬ノ貨幣採用セラレタリ就中金銀ハ最モ能ク此目的ニ適フモノナリ
トテ現今文明國ニ於テハ一般ニ之ヲ使用ス此ノ如ク古來貨幣トシテ使用セラ
レタルモノハ千態萬様ニシテ其爲シタル職分ノ外均一ノ點ヲ發見スルコト能
ハス故ニ今貨幣ノ職分ニ從ヒテ定義ヲ下スコト左ノ如シ
一 貨幣トハ一般ニ交換ノ媒介價格ノ標準價格ノ本位價格ノ貯藏トシテ用ヒラ

ト爲ルヘキ支出等ヲ以テ起債ノ目的ノ條件ト爲シ(府縣制第一一七條郡制第
九五條尚ホ別ニ地方人民ノ負擔重キニ失スルカ爲メ通常ノ歲入増加ニ依ル
コト能ハサルコトヲ附帶ノ條件ト爲スモノアリ)市制第一〇六條町村制第一
〇六條)

第三 公債發行額ニ對スル制限

或ハ發行額ヲ百萬弗ニ限定セルモノアリ(紐育州憲法第七條第一〇項或ハ一
箇年間ニ發行シ得ヘキ總額ヲ州内ニ存スル財産評價額ノ一千分ノ四分ノ一
以下トシ公債ノ總額ハ一千分ノ四分三以内ニ限定セルモノアリ)コロラド州

憲法第九條第三項)

第四 公債證券ノ發行ニ對スル制限

監督官廳ノ特定セル用紙又ハ特定以外ノ用紙ニシテ監督官廳ノ官印ヲ押捺
セルモノナルコトヲ條件ト爲スモノアリ(英國地方債條例補則第五章)

第五 償還方法ニ對スル制限

或ハ償還期間ノ最高限度ヲ定ムルモノアリ或ハ償還期間ノ最高限度ヲ併セ

定ムルモノアリ英費米佛日或ハ年ノ償還歩ヲ一定スヘキコトヲ條件ト爲
スモノアリ(市制第一〇六條町村制第一〇六條)

以上ハ地方債ノ發行ニ對スル制限ノ重ナルモノナリ然レトモ等シク公共團體
ニシテ府縣アリ市町村アリ水利組合學校組合アリ此等ノ團體又各國ニ通シテ
其大小強弱一ナルコトナシ唯要ハ其歳入ノ財源豐饒ニシテ財務ノ衝ニ當ル者
其人ヲ得ハ地方債ニ依リテ所在地方ノ國民民福ヲ増進シ得ヘキノミナラス能
ク自治制度ノ本旨ヲ到達シ得ヘキコト又言フ埃タス我邦ノ地方團體ノ如ク一
萬三千餘ノ團體中公共財産ナキモノ五千ヲ超ニ地方團體ノ財産總計一千五百
萬圓内外ニ止マリ一團體ノ財産平均二千圓ニ墮ラナル無資力ノ狀態ニ在リテ
ハ未タ濫用ノ弊害ヲ生スルニ足ルヘキ地位ニヌラ連セサルモノニシテ地方財
政發達ノ前途猶ホ杳トシテ悠遠ナリト謂フヘキノミ

財政學終

(三十三年度講義終)

村 宏 講述
村 宏 講述

財政學

和佛法律學校發行

時勢新學社發行

根 地 學

著者 藤野野矢
編者 藤野野矢
出版 時勢新學社
發行 時勢新學社
印刷 時勢新學社
地址 東京市神田區

三十三號

財政學 目次

第一編 總論	一
第一章 財政	一
第一節 財政ノ觀念	一
第二節 財政ノ範圍	六
第三節 財政ノ性質	一四
第二章 財政學	一九
第一節 財政學ノ觀念	一九
第二節 財政學ト他ノ學科トノ關係	二七
第三節 財政學ノ歷史	三一
第一款 第一期ノ財政學史	三一
第二款 第二期ノ財政學史	三三
第三款 第三期ノ財政學史	三九

財政學目次

第四款 第四期ノ財政學史……………四四

第二編 收入論……………五二

緒論……………五一

第一部 私經濟的收入……………五五

緒論……………五五

第一章 官有財產……………六一

第一節 官有ノ土地……………六一

第一款 官有土地ノ意義……………六五

第二款 官有土地ノ管理……………六七

第三款 官有土地ノ利害……………七一

第二節 官有森林……………七六

第一款 官有森林ノ意義……………七六

第二款 官有森林ノ利害……………七七

第二章 官業……………八二

第三章 政府ノ交通業……………八二

緒論……………八二

第一節 郵便……………八八

第二節 電信……………九五

第三節 鐵道……………九八

第二部 公經濟的收入……………一一

第一章 手數料……………一一

第一節 手數料ノ概念……………一一

第二節 手數料ノ分類……………一九

第一款 樣ニ依ル手數料ノ分類……………一九

第二款 體ニ依ル手數料ノ分類……………二二

第二章 租稅……………二五

第一節 租稅ノ觀念……………二五

第二節 租稅ノ原則……………三三

緒論.....一三八

第一款 財政上ノ原則.....一四四

第一項 租稅收入ノ數額及ヒ性質ニ關スル原則.....一四五

第二項 租稅行政ニ關スル原則.....一四八

第二款 公正ノ原則.....一五二

第一項 一般ノ原則.....一五三

第二項 平等ノ原則.....一五九

第三款 經濟上ノ原則.....一六一

第一項 賦課徵收ノ方便ニ關スル經濟上ノ原則.....一六一

第二項 租稅ノ種類及ヒ稅額ニ關スル經濟上ノ原則.....一六二

第三節 租稅ノ分類.....一六六

第一款 緒論.....一六六

第二款 收納ノ實體ニ依ル分類.....一六八

第三款 課稅物件移轉ノ地域ニ依ル分類.....一七一

第四款 賦課ノ方法ニ依ル分類.....一七五

第五款 負擔ノ所在ニ依ル分類.....一七七

第四節 租稅ノ分配.....一八六

第一款 比例稅及ヒ累進稅ノ沿革.....一八七

第二款 累進稅ニ對スル積極論.....一八九

第一項 純正經濟學上ノ積極論.....一九二

第二項 社會政策上ノ積極論.....一九三

第三款 累進稅ニ對スル消極論.....一九三

第一項 經濟上ノ消極論.....一九三

第二項 行政上ノ消極論.....一九三

第三項 財政上ノ消極論.....一九四

第四項 道德上ノ消極論……………一九五

第四款 累進稅ニ對スル消極論ノ批評……………一九六

第五款 結 論……………二〇〇

第五節 租稅制度……………二〇七

第一款 緒 論……………二〇七

第二款 單稅及ヒ複稅論……………二〇八

第一款 單稅論ノ沿革……………二〇八

第二款 單稅論ニ對スル非難……………二〇九

第三款 國稅及ヒ地方稅論……………二一一

第一款 緒 論……………二一一

第二款 附加稅及ヒ特別稅……………二一三

第三款 特別稅ノ特質……………二一五

第六節 租稅ノ負擔……………二二一

第一款 負擔ノ免除ト消滅……………二二一

第三編 收支適合論

第二項 負擔ノ停止ト轉嫁……………二二三

第三項 負擔ノ轉嫁ニ關スル理論……………二二六

第一章 總 論……………二三〇

第一節 收支ノ不適合……………二三〇

第一款 緒 論……………二三〇

第二款 剩餘ヲ生スル場合……………二三二

第三款 不足ヲ生スル場合……………二三五

第二節 臨時ノ不足ニ對スル救正方法……………二四〇

第一款 官有財産ノ拂下……………二四〇

第二款 非常準備法……………二四一

第三款 租稅ノ増徴ト公債ノ募集……………二五〇

第二章 公債ノ觀念……………二六九

第一節 公債發達ノ順序……………二六七

第一章 緒論.....二六七

第二章 債務關係ノ常事者ヲ標準トスル場合.....二六八

第三款 債務關係ノ體様ヲ標準トスル場合.....二七二

第二節 公債發達ノ歴史.....二七四

第一款 公債ノ發生時期.....二七四

第二款 公債變遷ノ時期.....二七六

第三款 公債發達ノ時期.....二七七

第三節 公債發達ノ原由及ヒ條件.....二八八

第一款 公債發達ノ原由.....二八八

第二款 消極的原由——國家觀念ノ一變.....二八八

第三款 積極的ノ原由——經濟界ノ進步.....二九〇

第四節 公債發達ノ條件.....二九一

第一款 金融市場ノ發達.....二九二

第二款 一國信用ノ増加.....二九三

第四章 公債ト私債.....二九五

第三章 公債ノ分類.....三〇二

第一節 緒論.....三〇二

第二節 非常公債及ヒ平常公債.....三〇六

第一款 非常公債.....三〇六

第二款 平常公債.....三〇七

第三款 生産的公債及ヒ不生産的公債.....三〇九

第三節 内國債及ヒ外國債.....三一〇

第一款 緒論.....三一〇

第二款 財政上外國債ノ利害ヲ論ス.....三一三

第三款 經濟上外國債ノ利害ヲ論ス.....三一五

第四款 政治上外國債ノ利害ヲ論ス.....三一八

第四節 強制公債ト任意公債.....三二一

第一款 強制公債.....三二一

- 第一項 直接強制公債.....三二一
- 第一目 借入強制公債.....三二二
- 第二目 支拂強制公債.....三二三
- 第二項 間接強制公債.....三二五
- 第一款 任意公債.....三三九
- 第一項 愛國公債.....三三九
- 第二項 契約公債.....三四一
- 第三項 通常公債.....三四七
- 第五節 流動公債及確定公債.....三四八
- 第一款 緒論.....三四八
- 第二款 流動公債.....三五〇
- 第一項 行政上ノ流動公債.....三五〇
- 第一目 緒論.....三五〇
- 第二目 郵便貯金.....三五三

- 第二項 財政上ノ流動公債.....三六一
- 第一目 緒論.....三六一
- 第二目 大藏省證券.....三六六
- 第三目 紙幣.....三七一
- 第三款 確定公債.....三七七
- 第一項 緒論.....三七七
- 第二項 有期確定公債.....三八一
- 第一目 割増公債.....三八一
- 第二目 年金公債.....三八六
- 第三目 定期確定公債.....三九四
- 第三項 無期確定公債.....四〇〇
- 第四章 公債ノ募集.....四〇三
- 第一節 緒論.....四〇三
- 第二節 直接發行法及間接發行法.....四〇六

第三節 公債ノ條件ヲ標準ト爲ス公債募集方法ノ分類

第一節 類

第一款 割増平價及ヒ割引發行法.....四一五

第二款 籤札附發行法.....四二一

第三款 償還基金又ハ抵當物附發行法.....四二四

第四款 記名發行法及ヒ無記名發行法.....四二四

第五款 募集ノ同數及ヒ拂込ノ多少ヲ標準ト爲ス.....四二五

第二款 法

第五章 公債ノ管理

第一節 緒論.....四二九

第二節 公債ノ借換.....四三二

第三節 公債利子ノ引下.....四三八

第一款 合意ニ出ラレ利子引下.....四三九

第二款 強制ニ出ラレ利子引下.....四四二

附錄

第四節 公債ヲ課稅物件ト爲スノ可否.....四四四

第六章 公債ノ償還

第一節 緒論.....四四九

第二節 公債償還ノ可否.....四五三

第三節 公債償還ノ時期.....四六〇

第四節 公債償還ノ方法.....四六六

第七章 地方債

第一節 緒論.....四七四

第一款 地方債研究ノ必要.....四七四

第二款 地方債増加ノ趨勢.....四七七

第三款 地方債増加ノ原由.....四七九

第二款 第一項 緒論.....四七九

第二項 都市ノ膨脹.....四八一

第三項 社會政策主義.....四八三

財政學目次

第四項 地方分權ノ伸張中央財政ノ膨脹……………四八五

第五項 代議政體ノ組織限地的公債……………四八六

第二節 地方債ノ起債及ヒ償還……………四八七

第一款 地方債ノ起債……………四八七

第二款 地方債ノ償還……………四九〇

第三節 地方債ノ監督……………四九三

第一款 地方債監督ノ必要……………四九三

第二款 地方債監督ノ方法……………四九五

第一節 公債監督、利息……………四五六

第二節 公債償還、利息……………四五六

第三節 公債償還、利息……………四五六

第四節 公債償還、利息……………四五六

第五節 公債償還、利息……………四五六

所氏名ヲ登録スヘキコトヲ定メ明治二十二年大藏省訓令第四十九號ハ更ニ其様式ヲ左ノ如ク定メタリ

字	地番		等級	所有主氏名	
	反内歩	反外歩		所有主住所	所有主氏名
地目	反別	反内歩	登記年月日	所有主住所	所有主氏名
地價	地租	名	故	質取	質取
間	間	稱			

現行組織法 各種ノ組織 地租 現行組織

字、地番等級、地目、反別、地價、地租、登記年月、日、所有主住所、買取主氏名ノ各欄ハ其文字ノ示ス所ノミニ依リ自ラ明カナルヲ以テ別ニ説明ヲ爲ササルヘシ唯内外歩沿革及ヒ事故ノ欄ニ記入スヘキ事項ニ付テハ一二説明ヲ加フルヲ便宜トスヘキカ故ニ左ニ之ヲ述フヘシ

(イ) 内歩欄ニハ一筆ノ土地中其地ニ付シタル地目ト異ナリタル狀態ヲ呈スル土地ヲ包含スル場合ニ於テ其步數及ヒ名稱ヲ記入スヘキモノナリ例ヘハ田地中ニ三步ノ岩敷ヲ包含スルトキハ内部ノ欄ニ三步ト記シ名稱ノ欄ニ岩敷ト記スルカ如シ

(ロ) 外歩欄ニハ一筆中反別欄ニ記入シタル反別以外ニ稍ヤ地面ノ形狀ヲ異ニスル土地アル場合ニ於テ其步數及ヒ名稱ヲ記入スヘキモノトス例ヘハ本地反別ノ外畦畔十歩アルトキハ外歩欄ニ十歩ト記シ名稱欄ニ畦畔ト記スルカ如シ地租條例施行規則發布前ニ於テハ田畑ニ限リテハ畦畔反別ヲ除キ其反別ヲ定ムル制親ナリシヲ以テ田畑ニハ總テ畦畔ナル外吾地アリト雖モ地租條例施行規則ノ發布ニ因リ畦畔ヲ除キ丈量スルノ特例ハ廢止セラレタルヲ以テ土地ハ總テ其

境界ヨリ丈量スヘキモノナリ隨テ外歩欄ニ記入スヘキ事項ヲ殆ソト之レナキニ至リタルモノナリ

(ハ) 沿革欄ニハ地目變換開墾免租地成荒地成分割合併等其他總テ土地異動ノ事實ヲ記入スヘキモノトス土地ノ反別地價地租等ノ變更ハ土地其物ノ異動ニアラサルモ其事由ハ亦之ヲ沿革欄ニ記入スヘキモノナリ
(ニ) 事故欄ニ所有權又ハ賃權ノ取得若クハ消滅アリタル旨ヲ記入スヘキモノトス所有權又ハ買取主ノ住所氏名ニ變更アリタル場合ニ於テモ亦其旨ヲ事故欄ニ記シ然ル後買取主住所欄又ハ所有主氏名欄ニ新任所又ハ新氏名ヲ記入スヘキモノナリ

第二 土地臺帳所管官廳

土地臺帳規則第二條ハ市ノ土地臺帳ハ府縣廳ニ於テ町村ノ土地臺帳ハ島廳郡役所ニ於テ之ヲ設ケ其事務ヲ取扱フヘキモノト爲ス土地臺帳規則發布セラレタル當時ニ於テハ市ノ地租事務ハ府縣廳ニ於テ町村ノ地租事務ハ島廳郡役所ニ於テ之ヲ取扱ヒタルヲ以テ土地臺帳モ亦府縣廳及ヒ島廳郡役所ヲ之

ヲ所管セシムヘキモノト爲シタルモノナリ然ルニ爾後官制ヲ改メ地租事務ハ市ト町村トノ區別ナク總テ直稅分署ニ於テ之ヲ取扱フヘキモノト爲シタルヲ以テ土地臺帳規則第二條中ニ規定シタル府縣廳及ヒ島廳郡役所ノ職權ハ自ラ直稅分署ニ移ルニ至リ尋テ爾度ノ官制改正ニ因リ直稅分署間稅分署ハ合シテ收稅署ト爲リ更ニ稅務署ト改稱シタルヲ以テ土地臺帳規則ハ改正ヲ經サルモ官制改正ノ結果現今ハ稅務署ヲ以テ土地臺帳所管廳ト爲ササルヲ得サルニ至リタリ

土地臺帳規則第二條ハ獨リ土地臺帳ノ所管廳ヲ定メタルノミナラヌ同時ニ該規則ニ於テ稱スル土地臺帳ナルモノハ府縣廳及ヒ島廳郡役所ニ設ケタル所ノモノノミヲ指スコトヲ定メタルモノナリ故ニ明治十七年大藏省第八十九號達ニ依リ當時市町村役場ニ備ヘタル土地臺帳ナルモノハ其市町村內ニ於ケル土地ノ沿革及ヒ反別地價地租等ヲ明ニスルモノナラザリ以テ市町村ハ依然之ヲ維持整理ニ力メ之ニ依リテ市町村自治行政上諸般ノ便宜ヲ得ンコトヲ期スヘキハ勿論ナリト雖モ明治二十二年勅令第三十九號土地臺帳規則ノ所謂土地臺帳ニハ

アラサルヲ以テ該規則及ヒ該規則ニ本キ制定セラレタル土地臺帳規則施行細則カ土地臺帳ニ付キ規定シタル所ハ市町村ニ設備スル土地臺帳ニ適用セラルルモノニアラサルナリ

第三 土地臺帳登錄手續

土地臺帳ナルモノハ屢記述スルカ如ク地租賦課ノ基礎ニシテ而モ其記載ハ未登記ノ土地ニ付テハ所有權ヲ證明スヘキ重要ナル材料ト爲ルモノナルヲ以テ其實地トノ符合ヲ保ツコトニハ最モ心ヲ用ヒサルヘカラス外國ノ例ニ於テハ土地臺帳ノ維持整理ノ爲メニハ法令ヲ以テ細密ナル規定ヲ爲スモノアリト雖モ我邦ニ於テハ土地臺帳ノ登錄ニ關シテハ法令ヲ以テ規定スル所甚少シ故ニ大體ニ於テハ當該官吏ハ精確ナル材料アリタルトキ之ニ依リテ土地臺帳ノ登錄ヲ爲スヘキモノナリト謂フノ以上ニ出ヅルコト能ハス然レトモ如何ナル帳簿ト雖モ之カ記入ハ精確ノ材料ニ依ルヘキハ當然ニシテ獨リ土地臺帳ニ限ルモノニアラサルカ故ニ今少シク事實的ニ之ヲ述フルコトトセハ當該官吏ハ土地ニ關スル異動ニシテ地租事務ニ關聯スルモノニ付テハ凡ソ左ノ如キ手續

ヲ以テ土地臺帳ノ登錄ヲ爲スモノナリト謂フコトヲ得ヘシムルニ依リテ指定スルモノハ指定
 (イ) 官廳ニ於テ公示スルモノハ其公示ニ本キ官廳ニ於テ指定スルモノハ指定
 ヲ爲シタル官廳ノ通知ニ本キ土地臺帳ノ登錄ヲ爲スヘキモノトス
 (ロ) 稅務管理局長ノ許可ヲ要スルモノハ其許可ニ依リ稅務官廳以外ノ官廳ノ
 許可ヲ要スルモノハ其許可ヲ爲シタル官廳ノ通知ニ依リ土地臺帳ノ登錄ヲ爲ス
 ヘキモノトス
 (ハ) 法律又ハ命令ニ於テ稅務官廳ニ申告スヘキモノト爲シタルモノハ其申告
 ニ依リ土地臺帳登錄ノ手續ヲ爲スヘシムルモノトス
 (ニ) 法令ニ於テ申告スヘキコトヲ定メタル所有者又ハ買取主ノ申告シタル
 所ニシテ事實ト符合スルモノハ其申告ニ依リ土地臺帳ノ登錄ヲ爲スヘシ但シ
 所有權ノ取得若クハ移轉及ヒ質權ノ設定移轉若クハ消滅ニ付テハ相續ニ因ル
 場合ノ外ハ申告ノミニ依リ土地臺帳ノ登錄ヲ爲スコトヲ得タルモノトス(土地
 臺帳規則施行細則第五條是レ)ハ成ルヘク土地臺帳ト登記簿トノ相續ヲ避ケ
 ントスルニ出テ一ハ事實所有權ノ移轉アル場合ニ於テ移轉ノ登記ヲ爲サス單

ニ所有權保存ノ登記ヲ爲シ以テ所有權取得ニ付キ定メラルベシタル登錄稅ヲ免レ
 ントスル者ヲ防クノ意ニ出テタルモノナルヘシ
 (ホ) 所有權ノ取得若クハ移轉質權ノ設定移轉若クハ消滅及ヒ未登記ノ土地ノ
 所有權保存登記ハ登記所ヨリノ通知ニ依リ土地臺帳ノ登錄ヲ爲スヘシ不動態
 登記法第一一條土地臺帳規則第三條明治二十二年司法省令第三號(土地臺帳規則)
 (一) 申請又ハ申告スヘキ場合ニ於テ之ヲ爲ササルトキ土地臺帳ニ記載漏ノ土
 地アルトキ申請又ハ申告スヘキコトヲ定メタル有租地成又ハ免租地成アリタ
 ルトキ若クハ土地臺帳ノ記載ニ誤謬アルトキ當該官吏之ヲ發見セタル場合ニ
 於テハ其事實確實ナルモノニ限リ事實ニ依リ土地臺帳ノ登錄ヲ爲スヘキモノ
 ナリトス又ハ該規則第三條(一)項申請又ハ申告スヘキ事項ニ對シテ該規則
 當該官吏カ以上舉グル所ニ依リ土地臺帳ノ登錄ヲ爲スニ當リテハ其事項ニ依リ
 地租事務上當然起ルヘキ地ノ事項ニシテ土地臺帳ニ記載スヘキモノハ其職責
 ヲ以テ併セテ登錄セサルヘカラサルモノナリ例ヘハ一筆ノ山林ノ一部保安林
 ニ編入セラレタルノ告示ヲ以テ該キハ保安林編入ノ旨ヲ土地臺帳ニ登錄ス

ル前ニ於テ先ツ其部分ノ分割ヲ登錄セラルヘカラス又例ヘシ地目變換ノ届出アリタルトキハ之ニ依リテ地目ノ登錄ヲ爲スヘキハ勿論地目變換ニ伴フ法律上ノ效力タル地價修正ヲ爲シタルトキ其結果ヲモ登錄スルコトヲ要ス故ニ當該官吏ハ土地ニ關スル異動ニシテ地租事務ニ關聯スル事項ニ付テハ常ニ官廳ノ告示又ハ通知所有者又ハ買取主ノ申請申告及ヒ實地ノ狀況等ニ注意シ遺漏ナカラシコトヲ期スヘキハ勿論一旦精確ナル材料ヲ得タルトキハ之ニ關聯シテ土地臺帳ニ登錄スヘキ事項ハ一モ之ヲ遺テサルコトニハ最モ意ヲ用ヒタルヘカラス

第四ノ土地臺帳ノ謄本請求
 土地臺帳ノ謄本ヲ要スル者ハ土地一筆ニ付キ金二錢ノ割合ヲ以テ手数料ヲ納メ土地臺帳所管廳タル稅務署ニ請求スルトキハ之カ交付ヲ受タルコトヲ得ル土地臺帳規則第四條ハ土地臺帳ノ謄本ヲ要スル者トシテ廣ク規定シタルヲ以テ所有者買取主ノ之ヲ請求スルコトヲ得ヘキハ勿論土地臺帳ノ謄本ヲ入用トスル者ハ其土地ニ付キ何等ノ權利ヲ有セサル者ト雖モ之カ請求ヲ爲スコト

ヲ得ルモノナリ謄本請求ノ手数料ハ現今印紙ヲ以テ之ヲ納ムヘキモノト定ラレタルヲ以テ請求者ハ手数料ニ相當スル收入印紙ヲ請求書ニ貼付シテ之ヲ提出スヘキモノトス

遠隔ノ地ニ在ル者ハ郵便ヲ以テ土地臺帳ノ謄本ヲ請求スルコトヲ得ヘシ然レトモ元來謄本ノ請求ハ稅務署ニ申出テ之カ交付ヲ受タルヲ本則トスルモノナラシメ以テ郵便ヲ以テ請求スル者ハ謄本送付ニ要スル通信料ヲ負擔セサルヘカラス故ニ此場合ニ於テハ書留郵便ヲ以テ送付セラルルコトヲ望ム者ハ書留郵便料普通郵便便ヲ以テ送付セラルルコトヲ望ム者ハ普通郵便料ニ相當スル郵便切手ヲ請求書ト共ニ添送スルコトヲ要スルモノトス

第八款 改良地ニ關スル特例
 地租ヲ課セス又ハ之ヲ免シタル土地ニシテ有租地トナリタルトキハ之カ地價ノ設定ヲ要シ有租地ニシテ地目變換地類變換若クハ開墾ヲ爲シタルトキハ地價ノ修正ヲ爲ササルヘカラスナルコト上來説明シタル所ノ如シ而シテ地價ノ設

定又ハ修正ヲ爲ス場合ニ於テハ地租條例第十三條第四項ニ依リ素地相當ト認
ムル地價ヲ定ムヘキ場合ノ外ハ總テ其地ノ現況ニ依リ所得ヲ審査シ之ニ依リ
テ其地價ヲ定ムヘキコト亦既ニ述ヘタル所ノ如シ此原則ハ土地改良ノ爲メ其
區畫形狀ヲ變更スル場合ニ於テ其特例ヲ見ルモノナリ明治三十年法律第三十
九號ニ依レハ此ノ如キ土地ニ付テハ現地價ノ合計額ヲ每筆相當ニ分配シテ其
地價ヲ定ムヘキモノトス該法律ノ規定ハ用語簡短ニシテ稍ヤ盡ササルモノア
ルカ如シト雖モ該法律ノ制定セラレタル所以ノ趣旨カ目下我邦ニ於ケル土地
ノ狀態ヲ改良シ其生産力ヲ増加シ又ハ之カ生産費ヲ節減セントスル事業ヲ興
勵スルカ爲メ若クハ少クトモ之ニ支障ヲ與ヘサルカ爲メ改良シタル土地ノ地
租ハ之ヲ從前ノ地租ヨリ重キコトナカラシメ其改良事業ニ伴フテ土地臺帳ニ
登錄スル事項ニ付テハ登錄稅ヲ徵收セザルニ在リシヨリ見レハ該法律ノ規定
ハ原則ニ對シ左ノ點ニ於テ例外ヲ爲スモノト謂ハサルヘカラス

(イ) 改良事業ノ爲メ地租ヲ課セス又ハ之ヲ免シタル土地ヲ有租地ト爲シ若ク
ハ有租地ノ地面ノ狀態ヲ變更スルニ至ルモ地價ノ設定又ハ修正ヲ爲サズ隨テ

地目變換地類變換開墾等ノ手續ヲ爲スコトヲ要セス明治三十年法律第三十九
號ハ此事ヲ明言セスト雖モ改良事業ニ伴フ土地狀態ノ變更ニ付キ一ニ地租條例
ノ定ムル所ニ依リ地價ノ設定又ハ修正ヲ爲スヘキモノトモハ改良地ノ地價各
計額ヲ從前ノ地價合計額ト同一ナラシムルモノト爲シタル法律ノ趣旨
ハ殆ト無意義ノモノト爲ルヘシ此ノ如キハ法文解釋ノ當ヲ得タルモノニアラ
ズ特ニ明治三十年法律第三十九號第三項ハ改良着手前ニ地目變換地類變換開
墾等ヲ爲シタル土地アル場合ニ付テ之カ詳細ノ規定ヲ設ケシルニモ拘ラス改
良着手中ノ土地狀態變更ニ付テハ何等ノ言ヲ爲サザリシヲ以テ見ルモ改良ニ
伴フ土地狀態ノ變更ハ法律ハ之ヲ以テ地目變換開墾等ト看做サザルヲ精神ナ
ルコト推知スルニ足ルヘシ

(ロ) 改良事業ノ爲メ土地ノ區畫ヲ變更スルニ伴フ手續ヲ爲スコトヲ要セ
ルノ手續ヲ爲スカ爲メナリ然ルニ改良地ノ地價ハ改良後ノ區域ニ本邦政府ニ
於テ相當配賦ヲ爲スモノニシテ之カ爲メ明治三十年大藏省令第十九號第二項

ハ事業成功シタルトキ改良規畫者ヲシテ各筆ノ區域ヲ豫定シ其假定地價ヲ記載シタル書面ニ地圖ヲ添附シテ稅務管理局長ニ届出テシムルカ故ニ稅務管理局長ハ之ニ依リテ地價ノ相當配賦ヲ爲スコトヲ得ヘク特ニ分合筆ノ届出ヲ爲サシムルノ要ナシ明治三十年法律第三十九號ノ施行規則タル該省令カ此場合ニ付テ特ニ届出ノ手續ヲ定メタルハ則チ反面ニ於テ改良地ノ場合ニ於テハ分合筆ノ手續ヲ爲スニ及ハサルコトヲ定ムルモノト謂ハサルヘカラス但シ一筆ノ一部ヲ改良施行部分ニ入レ他ノ一部ハ之ヲ改良施行ノ範圍外ニ置ク場合ニ於テハ改良著手前之カ分割ヲ爲スヲ要スヘキハ論ヲ埃タス

(二) 改良地每筆ノ地價ヲ定ムルニハ其地ノ現況ニ依リ所得ヲ審査シ之ニ依リテ地價ヲ評定スヘキモノニアラスシテ改良ヲ施行シタル範圍内ニ於ケル從來ノ地價ヲ合計シ之ヲ相當ニ分配スヘキモノトス但シ相當ナル分配ヲ爲サントセハ勢ヒ實地ノ情況ニ依リ其所得ヲ審査シ之ニ應ジテ配賦スヘキ地價ヲ定メテハヘカラサルカ故ニ所得審査ノ原則ハ此場合ニ於テモ亦其適用アルモノナリト雖モ每筆ノ所得ニ依リ直チニ地價ヲ評定スルニアラスシテ從來ノ地價總額

ヲ以テ改良地全體ノ地價總額ト爲シ每筆ノ所得ニ應ジ之ヲ分配スルノ點ニ於テ原則ニ對スル特例アルモノナリ
改良地ハ右ニ述フル如ク土地ノ形狀區畫ヲ變更スルモ地租條例其他地租ニ關スル法令ノ定ムル手續ヲ爲スコトヲ要セス且ツ土地ノ改良アリタルニモ拘ラズ其地價ハ總額ニ於テハ従前ノ地價ヨリ増加スルコトナキカ故ニ改良ヲ施ササル地ニ比スレハ所得ノ割合ニハ其地租輕キヲ常トスルモノナリ故ニ法律上特殊ノ恩典アルモノト謂ハサルヘカラス此恩典ヲ享受スルニハ法律ハ左ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ストセリ
(イ) 市町村内ノ土地所有者全部又ハ一部共同シテ其區畫形狀ヲ變更スルカ又ハ同一土地所有者ニシテ地積數筆ノ土地ノ區畫形狀ヲ變更スルコトヲ要ス
明治三十年法律第三十九號ハ土地ノ整理ヲ爲ス者ニ便宜ヲ與フルノ趣旨ヲ以テ制定セラレタルモノナリ土地ノ整理トハ多數ノ所有者カ土地ノ交換分合等ヲ行フカ又ハ同一所有者ト雖モ多數ノ土地ニ付キ其分合變更等ヲ爲スヲ謂フモノナルヲ以テ交換分合變更等カ多數ノ土地ニ付キ行ハルル場合ニアラサレハ同

法ヲ適用スヘキモノニアラス但シ如何ナル場合ニ於テ多數ノ土地ニ付キ交換分合變更等アリキハ事實ノ問題ナルヲ以テ當該官廳ノ認定ニ任スヘキモノトス

(6) 土地ノ區畫形狀ノ變更ハ改良ノ目的ニ出ツルコトヲ要ス明治三十年法律第三十九號ハ土地ノ生産力ヲ増加シ又ハ其生産費ヲ節減セントスルカ如ク改良ヲ獎勵スルノ趣旨ヲ有スルヲ以テ改良ノ目的ナキ區畫形狀ノ變更ノ場合ニハ同法ヲ適用スルコトヲ得ス

(7) 政府ノ許可ヲ受ケテ土地ノ區畫形狀ヲ變更シタルモノナルコトヲ要ス土地ノ區畫形狀變更ニシテ明治三十年法律第三十九號ノ定ムル恩典ヲ受クルニハ土地改良ノ爲メ之ヲ整理スル場合ナラサルヘカラス而シテ區畫形狀變更カ改良ノ目的ニ出ツルヤ將タ法律ノ期スル土地ノ整理ナルヤハ事實ノ問題ナルヲ以テ時ニ認定上争アルコトヲ免レス故ニ法律ハ豫メ政府ノ許可ヲ受タヘキモノト爲セ政府ノ許可シタルモノノミヲ以テ改良ノ目的ヲ有スルモノニシテ而モ土地ノ整理ヲ爲スモノト看ルヘキモノト爲シ以テ他日争議ヲ生スルノ餘地ナカラシメタリ而シテ既ニ法律ヲ以テ政府ノ許可ヲ要スト爲シタル以上

ハ苟モ政府ノ許可ヲ受ケサレハ事實改良ノ目的ヲ以テ多數ノ土地ノ交換分合變更等ヲ爲スモ明治三十年法律第三十九號ノ恩典ヲ受タルコト能ハサルモノトス出願ハ所轄稅務管理局長ニ向ヒテ之ヲ爲スモノニシテ出願書ニハ必ス事業著手ノ時期ヲ記スヘク且ツ設計書現在地圖變更豫定圖ヲ作り之ヲ添附セザルヘカラス若シ改良ヲ施行セントスル範圍内ニ官有地又ハ民有第二種地即チ免租地アリテ其拂下又ハ下渡若クハ供用變更ニ付キ官廳ノ許可ヲ要スルトキハ豫メ主管官廳ノ許可ヲ受ケ其許可書ヲモ添附セザルヘカラス明治三十年大藏省令第十九條第一項)

以上述フル所ハ改良地ニ關スル特例ノ普通ナルモノナリ改良施行地ニシテ單純ナル場合換言スレバ改良施行地内ニ事業著手前ノ事由ニ因リ地價ノ設定修正又ハ復舊ヲ爲スヲ要スル土地ナキ場合ニ於テハ常に以上ニ述ヘタル特例ヲ見ルヘキモノナリ若シ改良施行地内ニ事業著手前ニ於テ地目變換地類變換開墾ヲ爲シ未タ其地價ヲ修正セザル土地ヲ包含シ又ハ事業著手前ニ墾下年期新開免租年期地價据置年期荒地免租年期若クハ低價年期ノ許可ヲ受ケ其年期尙

本條丁ニ至ラサル土地ヲ包有スルトキハ地價ノ設定修正又ハ復舊ニ付キ地租條
 例ノ規定スル所ト改良地ニ關シ明治三十年法律第三十九號特ニ規定セタル所
 トハ如何ニ之ヲ調和スヘキモノナルヤ事業著手後ニ於テハ改良施行地内ニ於
 ケル土地ノ分割ハ全ク一變シ其地面ノ狀態モ亦面目ヲ改ムルモノアルヘキカ
 故ニ従前ノ區域ト狀態トニ依リ地價ノ設定又ハ修正ヲ爲サントスルモ之ヲ評
 價スルニ由テカ爾ヘシ且ツ事業竣功シタルトキハ新區域ニ依リ每筆相當ニ地
 價ヲ定ムルヲ以テ特ニ規定アルニアラサレハ之ニ依リテ地租ヲ徵收セサルヘカ
 ラス隨テ未タ滿丁ニ至ラサル年期ハ之ヲ消滅セシムルカ又ハ新定地價ニ對シ
 テ之ヲ適用スルノ途ヲ開カサルヘカラス明治三十年法律第三十九號ハ其制定
 ノ當時ニ於テハ此等ノ點ニ關シテ規定ヲ缺如シタリ故ニ明治三十三年ニ至リ
 法律第六十二號ヲ以テ一項ヲ追加シ之カ不備ヲ補正セラレタリ追加後ノ法律
 ニ依レハ改良施行地内ニ事業著手前ノ事由ニ因リ地價ノ設定修正又ハ復舊ヲ
 爲スヲ要スル土地ヲ包含スル場合ニ於テハ左ノ如キ取扱ヲ爲スヘキモノトス
 一 地目變換地ヲシテ未タ地價ヲ修正セザリシモノ地類變換若クハ開墾ヲ爲

校外生規則摘要

- 一 講義録ハ各部毎月二回發行シ滿一個年ヲ以テ卒業トス
- 一 一個年ヲ以テ完了セザルトキハ號外ヲ發ス
- 一 講義録ハ之ヲ三部ニ分ツ其發行定日左ノ如シ
 - 第一部 毎月 五日 二十日
 - 第二部 毎月 十日 廿五日
 - 第三部 毎月 十五日 三十日
- 一 月謝金ハ全部壹圓、各一部四十錢トス但シ入學金ヲ要セス
- 一 校外生ハ本校講議會、討論會ニ出席傍聽スルコト及ヒ本校ノ出版ニ係ル書籍雜誌ハ特別ノ廉價ヲ以テ購求スルコトヲ得
- 一 校外生全部卒業證書ヲ有スル者ハ試験ノ上校內生三年級ニ編入セラルルコトヲ得
- 一 校外生ハ講義録中ノ疑義ニ付キ質問スルコトヲ得問題ハ一問毎ニ別紙ニ認メ且一問毎ニ返信用郵券ヲ封入スルコトヲ要ス
- 一 三個月以上月謝不納ノ者ハ退學者ト看做ス
- 一 月謝ハ東京飯田町郵便支局拂和佛法律學校會計係宛トスヘシ

明治廿二年十二月九日內務省許可

明治三十三年十二月廿一日印刷

明治三十三年十二月廿五日發行

東京市四谷區四谷中町三丁目六番地

編輯者 小田幹治郎

東京市芝區西ノ久保明倉町十一番地

印刷者 金子鐵五郎

東京市芝區西ノ久保明倉町十一番地

印刷所 金子活版所

東京市麴町區富士見町六丁目十六番地

發行所 和佛法律學校

司法省指定

(電話番町百七十四番)